

資料No. 3-6

## 研究報告の報告状況

(平成19年4月1日から平成20年3月31日までの報告受付分)

**研究報告の報告状況**  
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	一般的名称	報告の概要
1	イトラコナゾール	イトラコナゾールとviaminateの無作為化二重盲検クロスオーバー試験において、viaminateのTmaxが短縮する可能性が示唆された。
2	ホリナートカルシウム	StageⅢ結腸癌患者1886例を対象としてカペシタビン/オキサリプラチン(XELOX)とフルオロウラシル/ロイコボリン(FU/LV)を比較したPhaseⅢ試験において、XELOX群で肺炎、腸虚血、高血圧、敗血症、敗血症性ショックで6例が死亡し、FU/LV群でも肺炎、クロストリジウム感染、心筋虚血、好中球減少性大腸炎、好中球減少性敗血症、敗血症症候群で6例が死亡に至った。
3	ホリナートカルシウム	進行固形癌患者を対象としたFOLFOX+erlotinib療法のPhaseⅠb用量漸増試験において、ブドウ球菌性敗血症により1例が治療関連死した。
4	テガフル・ウラシル	進行扁平上皮頭頸部癌患者32例に対するテガフル・ウラシル/ビンブラスチン/シスプラチン療法+放射線/テガフル・ウラシル/カルボプラチン療法のPhaseⅡ試験において、発熱性好中球減少症、肺炎で2例が死亡した。
5	リスペリドン	抗精神薬の服用により、冠動脈心疾患(CHD)による死亡リスクが上昇することが示唆された。
6	アスピリン含有一般用医薬品	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
7	リツキシマブ(遺伝子組換え)	一医療機関において細胞傷害性化学療法剤による悪性リンパ腫治療を行なったHBs抗原陰性患者244例の経過観察により、リツキシマブを含む治療を行なった患者でde novo HBV-related hepatitis発現のリスクが高いことが示唆された。
8	エストラジオール	エストロゲン・プロゲステロン併用療法を過去に受けた患者において、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
9	エストラジオール	エストロゲン単独療法を受けた患者において卵巣上皮癌の発症リスクが高まることが示唆された。
10	エストラジオール	エストロゲン単独療法により、乳癌発症のリスクが高まることが示唆された。
11	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者を対象としたウラシル/フトラフル/ロイコボリン+イリノテカン(TEGAFIRI)群と+オキサリプラチン(TEGAFOX)群のPhaseⅡ試験において、TEGAFIRI群に60日以内の死亡が1例あった。また、Grade4の有害事象としてTEGAFIRI群に下痢、血小板減少、脱毛、白血球減少、好中球減少が、TEGAFOX群に神経毒性が認められた。
12	下垂体性性腺刺激ホルモン(1)	多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)の患者でのメトホルミンの使用は、多胎妊娠の発症率を増加させることが示唆された。
13	メシル酸ペルゴリド	ペルゴリドやカベルゴリンの使用は、弁逆流の発生を高めることが示唆された。
14	塩酸セルトラリン	塩酸セルトラリンの慢性的な使用は、リンパ球性大腸炎の発症リスクを高めることが示唆された。
15	オメプラゾール	オメプラゾールとカルバマゼピンの併用により、カルバマゼピンの血中濃度が上昇することが示唆された。
16	プレドニゾン	抗TNF製剤の投与を受けたリウマチ患者の心不全発現頻度は、プレドニゾンの投与により上昇することが示唆された。
17	オメプラゾール	オメプラゾールとカルバマゼピンの併用により、カルバマゼピンの血中濃度が上昇することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
18	メシル酸ペルゴリド	ドパミン作動薬であるペルゴリド、カベルゴリンは心臓弁閉鎖不全のリスクを高めることが示唆された。
19	アセトアミノフェン	高齢者での上部・下部消化管イベント(穿孔や出血)による入院リスクは、非選択的・非ステロイド性消炎鎮痛剤とアセトアミノフェンの併用、またはアセトアミノフェンの高用量服用と関連することが示唆された。
20	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	呼吸窮迫症候群(ROS)を伴う早産児におけるアンチトロンビン治療の用量及び時期に関するプラセボまたは無治療との無作為化対照比較試験2報のレビューにおいて、アンチトロンビンの投与により、ROSの早産児の死亡率を上昇させることが示唆された。
21	塩酸ミトキサントロン	1985～2001年の間にフランスの総合病院、がんセンター、診療所で最初に乳癌治療を受けた女性患者を対象とし、AML(138名)/MDS(44名)とコントロール(534名)を比較した症例対象研究において、ADL/MDSリスクがトポシメラーゼII阻害剤を中心とする化学療法で増大し、アントラサイクリン系よりもミトキサントロン系の方がリスクが高かった。また、G-CSF投与患者でもADL/MDSリスクが増大した。
22	フルコナゾール	ネビラピンを基本とした治療を開始したHIV感染症患者122例を対象としたプロスペクティブ研究において、フルコナゾール非併用群では皮膚発疹が6例に発症し、フルコナゾール併用群では血漿中ネビラピンのトラフ値が1.76倍に上昇し、1例に肝炎が発症した。
23	シロスタゾール	健康成人10例を対象とした無作為化非盲検交差試験において、シロスタゾールとイチョウの併用により、出血時間が有意に延長した。
24	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	一医療機関において、肝細胞癌の治療に使用する院内製剤であるファルモルビシン・ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル懸濁液を投与された患者が75名おり、発現した890件の副作用のうち、主な副作用は血清アルブミン低下、AST/ALT上昇、血色素減少などであった。
25	メルカプトプリン	シクロスポリンによる治療を受けた144例の治療記録を調査したところ、1例が長期のメルカプトプリン治療中に非ホジキンリンパ腫を発生した。
26	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	腹腔内感染症患者を対象とした多施設共同試験において、ピペラシリン/タゾバクタムを投与した217例のうち、7例が投与中に死亡し、うち1例が本剤と死亡との因果関係がある虚血性大腸炎により死亡した。
27	ニコチン酸トコフェロール	心筋梗塞の既往歴のある患者にビタミンEを投与すると、心不全発現リスクが高まることが示唆された。
28	塩酸バンコマイシン	インドの3次医療機関においてバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が検出された。
29	乾燥濃縮人活性化プロテインC	敗血症起因の心肺不全を有する在胎期間38週～17歳までの被験者に対する無作為化試験において、生後60日未満のダルベガエチン投与群患者は、プラセボ群と比較して、重篤な有害事象のリスクが高く、大出血を起こす傾向が強いことが示唆された。
30	シロドシン	健康男性においてシロドシンを内服したところ、全例で精囊の収縮不全による射出障害がみられた。
31	塩酸アマンタジン	国内で、2005-2006年冬季に分離されたアマンタジン耐性AH3型インフルエンザの発生率について遺伝子解析を行ったところ、塩酸アマンタジン耐性のインフルエンザウイルスの増加が示唆された。
32	塩酸アマンタジン	A型インフルエンザの治療に対して塩酸アマンタジンを投与した11例中9例で耐性ウイルスが認められた。
33	レトロゾール	ホルモン受容体陽性患者の開経後女性8028例を対象としたレトロゾールとタモキシフェンによる4つの術後補助内分泌療法のPhaseIII無作為化二重盲検試験の5年間治療の比較の51ヶ月追跡の中間解析結果において、レトロゾール群で骨折、関節痛、高コレステロール血症、心血管イベントの発生率が高く、タモキシフェン群では血管塞栓症、子宮内膜の病理学的異常、ほてり、寝汗、膣出血が多かった。

	一般的名称	報告の概要
34	ナルトグラスチム(遺伝子組換え)	乳癌患者5510例を対象としたレトロスペクティブな研究において、G-CSF投与が非投与に比べて急性骨髄性白血病と骨髄異形成症候群の発生リスクが2倍高かった。
35	フルコナゾール	ネビラピンを基本とした治療を開始したHIV感染症患者122例を対象としたプロスペクティブ研究において、フルコナゾール非併用群では皮膚発疹が発症し、フルコナゾール併用により血漿中ネビラピンのトラフ値が1.76倍に上昇し、1例に肝炎が発症した。
36	酢酸トコフェロール	基礎疾患にうつ血性心不全を有しない心筋梗塞後患者8416例を対象とした追跡調査において、ビタミンEが左室機能不全患者の心不全発現リスクを上昇させることが示唆された。
37	ホリナートカルシウム	転移性腺癌患者33例を対象としたゲムシタピン/フルオロウラシル/ロイコボリン/シスプラチン/イリリテカン併用療法により、Grade3-4の血小板減少、白血球減少、好中球減少、発熱性好中球減少、疲労、貧血、悪心・嘔吐および血栓症がみられ、肺塞栓症によると思われる突然死が1例みられた。
38	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータで治療を受けている多発性硬化症患者105例を対象としたレトロスペクティブ研究において、46例に肝機能検査値異常が認められた。
39	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	一医療機関においてインターフェロン ベータ製剤を投与されている女性50例を対象としたレトロスペクティブ研究において、本剤を投与されていた患者25例中5例に、他のインターフェロン ベータ1a製剤を投与されていた患者15例中4例に、インターフェロン ベータ1bを投与されていた患者10例中3例に月経不順が認められた。
40	ホリナートカルシウム	局所進行食道扁平上皮がん患者172例を対象とした化学療法(フルオロウラシル/ロイコボリン/エトポシド/シスプラチン)+放射線併用療法の有用性を検討する非盲検ランダム化臨床試験において、好中球減少性感染、食道-胃吻合部位漏出、肺炎、左主気管支の損傷、心不全、敗血症、胃腸出血、再生不良性貧血による治療関連死14例が報告された。
41	アセトアミノフェン	慢性便秘症の発症リスクの上昇は、アセトアミノフェンの使用と関連することが示唆された。
42	アセトアミノフェン	高齢者での上部・下部消化管イベント(穿孔や出血)による入院リスクは、非選択的・非ステロイド性消炎鎮痛剤とアセトアミノフェンの併用、またはアセトアミノフェンの高用量服用と関連することが示唆された。
43	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
44	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
45	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬を短期間(6ヶ月未満)使用すると、乳癌の発症リスクが上昇することが示唆された。
46	臭化バンクロニウム	バンクロニウムを使用した手術後に残存した筋弛緩効果は、術後肺合併症のリスクファクターとなることが示唆された。
47	クロバザム	クロバザムを投与された難治性てんかん患者でCYP2C19遺伝子変異アレルを2個有する者は、副作用の発現頻度が高いことが示唆された。
48	レボホリナートカルシウム	進行固形癌患者を対象としたFOLFOX+erlotinib療法のPhase I b用量漸増試験において、ブドウ球菌性敗血症により1例が治療関連死した。
49	エストラジオール	エストロゲンとプロゲステロンの併用により、ドライアイとなるリスクが上昇することが示唆された。
50	クエン酸クロミフェン	体外受精胚移植(IVF-ET)による子宮外妊娠は、クラミジアなどによる卵管障害ではなく、排卵誘発による内分泌動態の相違や胚移植といったIVF-ETという行為そのものによって引き起こされることが示唆された。
51	ベンズプロマロン	痛風の新患者1046名を対象としたコホート研究において、尿酸降下薬投与時の痛風発作の誘発因子として、投与前痛風発作の関節数およびBMI値が独立したリスクだった。

	一般の名称	報告の概要
52	ホリナートカルシウム	手術可能局所進行胃癌に対してフルオロウラシル+/-ロイコボリン/放射線療法後に胃摘出手術を行なうPhase II 試験において、心筋梗塞およびうっ血性心不全により各1例が死亡した。
53	非ピリン系感冒剤(2)	妊娠中のアセトアミノフェン暴露により、子供の喘息発症リスクが高まることが示唆された。
54	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	感染症患者9488例を対象としたタゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウムをルーチンに使用した場合の臨床的有効性と耐受性を検討した観察研究において、411例が死亡し、うち、本剤との因果関係がありと評価された死亡が12例あった。
55	イブプロフェン含有一般用医薬品	変形性関節症患者でイブプロフェンを投与された群で、心血管イベントの発症リスクが高まることが示唆された。
56	非ピリン系感冒剤(3)	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
57	ハロペリドール	心停止の既往のある患者にドンペリドンとハロペリドールを投与した場合、心停止のリスクが高くなることが示唆された。
58	硫酸インジナビルエタノール付加物	FDAの有害事象報告データベース(AERS)を用いた解析により、インジナビルにおける高トリグリセリド血症、血中トリグリセリド増加および骨壊死のPRRが他のHIV治療薬に比べて高かった。
59	ドンペリドン	入院患者での不整脈、心停止、突然死のリスクは、ドンペリドンとハロペリドールを投与された場合高くなることが示唆された。
60	カベルゴリン	パーキンソン病患者にカベルゴリンを投与すると、心弁膜症発症リスクが高まることが示唆された。
61	ホリナートカルシウム	リンパ節転移陽性の結腸癌第3期を完全切除し、フルオロウラシル/ロイコボリン術後補助療化学療法を施行した患者227例を対象としたレトロスペクティブ研究において、白血球減少による敗血症を含む死亡例が4例認められた。
62	ホリナートカルシウム	未治療進行胃癌および胃食道接合部癌患者38例を対象としたセツキシマブ/フルオロウラシル/ロイコボリン/イリリテカンのPhase II 試験(FOLCETUX)において、発熱性好中球減少症による死亡例が1例あった。
63	イトラコナゾール	健常日本人を対象とした無作為化二重盲検クロスオーバー試験において、イトラコナゾールがパロキセチンのC <sub>max</sub> ,AUC、消失半減期を有意に上昇させることが示唆された。
64	リスペリドン	リスペリドンとリファンピシンの併用により、リスペリドンのAUC、C <sub>max</sub> が減少することが示唆された。
65	シクロスポリン	腎移植患者27例を対象とした横断研究において、シクロスポリンが動脈硬化危険因子に関連することが示唆された。
66	インターフェロンアルファコン-1(遺伝子組換え)	インターフェロン アルファコン-1とリバビリン併用療法を実施した慢性C型肝炎患者94例の甲状腺機能を評価したところ、甲状腺機能に障害のある患者が女性27例、男性9例であった。
67	塩酸ドキシルピシン	British National Lymphoma Investigation,Royal Marsden Hospital,St. Bartholomew's Hospital,Christie Hospitalのデータベースを使用したホジキン病患者7033例のコホート研究において、アントラサイクリン系薬剤を投与された患者2826例中24例に心筋梗塞により死亡した。
68	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	切迫流産に対し硫酸マグネシウム・ブドウ糖を長期に使用すると、新生児の骨石灰化異常が見られることが示唆された。
69	塩酸バンコマイシン	dalbavancinに関する研究の際にサンプルとして選定された菌株のうち、1株がVancomycin-intermediate Staphylococcus aureus(VISA)であった。

	一般的名称	報告の概要
70	アセトアミノフェン含有一般用医薬品	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
71	塩酸バンコマイシン	微生物学研究所から収集したMRSA検体120株のうち、22株にVancomycin-intermediate Staphylococcus aureus(VISA)が検出された。
72	ドンペリドン	心停止の既往のある患者にドンペリドンとハロペリドールを投与した場合、心停止のリスクが高くなることが示唆された。
73	アセトアミノフェン含有一般用医薬品	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
74	リン酸オセルタミビル	2005-2006年シーズンに医療機関においてインフルエンザと診断された成人67例の検体を調査したところ、1検体にノイラミニダーゼ阻害剤耐性ウイルスが検出された。
75	プレドニゾン	真菌感染前の低用量のプレドニゾン投与又は真菌感染後の高用量のプレドニゾン投与は、真菌感染症による死亡原因と関連することが示唆された。
76	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
77	リファンピシン	健康被検者11例を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、リファンピシンがアトルバスタチンとその代謝物の血漿中濃度を上昇させることが示唆された。
78	ホリナートカルシウム	局所進行食道扁平上皮がん患者172例を対象とした化学療法(フルオロウラシル/ロイコボリン/エトポシド/シスプラチン)+放射線併用療法の有用性を検討する非盲検ランダム化臨床試験において、好中球減少性感染、食道-胃吻合部位漏出、肺炎、左主気管支の損傷、心不全、敗血症、胃腸出血、再生不良性貧血による治療関連死14例が報告された。
79	ワルファリンカリウム	2000~2002年までに3病院で脳出血と診断された患者593例を対象としたレトロスペクティブ研究において、ワルファリン投与が非投与に比べ有意に致死転帰をたどる割合が高かった。
80	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
81	メトレキサート	新たにメトレキサートを処方された若年性特発性関節炎患者220例に対する2施設の後ろ向きコホート研究において、投与開始6ヶ月目における高用量群(>0.5mg/kg/dose)および、投与開始6~12ヶ月間において女性の高投与量群は低用量群(≤0.5mg/kg/dose)に比べて肝機能検査値が高かった。
82	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsまたはアセトアミノフェンの処方を受けた患者群において、ジクロフェナクも使用している場合、急性心筋梗塞や消化管出血の発生率が高まることが示唆された。
83	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	新規に多発性骨髄腫を発症した患者においてケースコントロール試験を行ったところ、インスリンの使用のある患者では、多発性骨髄腫の発生率が高まることが示唆された。
84	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
85	オキサリプラチン	結腸直腸癌の肝転移切除症例90例を対象として、術前化学療法としてフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン投与群とその他化学療法投与群を比較したところ、類洞閉塞あるいは類洞拡張の肉眼的所見が前群で有意に多く認められた。
86	ヘパリンナトリウム	一医療機関において2003年11月から2006年6月までに認められた大動脈手術後のHIT合併症例12例のうち、計6例にヘパリンの術前使用歴や術後長期使用歴があった。
87	メシル酸イマチニブ	1988年7月から2006年7月までに一医療機関において臨床試験でイマチニブの投与を受けた血液がん患者1276例のカルテレビューを行なったところ、イマチニブ投与中にうつ血性心不全が22例に発現し、うち8例はイマチニブの関連が考えられた。

	一般的名称	報告の概要
88	リバビリン	C型慢性肝炎患者を対象として、ペグインターフェロン2b+リバビリン併用療法40例とペグインターフェロン2a単独療法10例の治療前後血清尿酸値を比較したところ、ペグインターフェロン2a単独療法群では尿酸値上昇例が認められなかったのに対し、ペグインターフェロン2b+リバビリン併用療法群では17例に有意な尿酸値の上昇を認め、うち9例は高尿酸血症を呈した。
89	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	成人虚血性脳卒中急性期のAHA/ASAガイドラインにおいて、大動脈解離は持続する低血圧を引き起こし、脳卒中の転帰に悪影響を与える可能性があるため、注意が必要である旨が記載された。
90	ホリナートカルシウム	手術可能局所進行胃癌に対してフルオロウラシル+/-ロイコボリン/放射線療法後に胃摘出手術を行なうPhase II 試験において、心筋梗塞およびうつ血性心不全により各1例が死亡した。
91	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
92	エストリオール	ホルモン補充療法(HRT)は、卵巣癌の発症リスクを高めることが示唆された。
93	塩酸リドリン	子宮頸管無力症の妊婦において、塩酸リドリン、エリスロマイシン、ペラパミルの併用療法は末梢血リンパ球の小核出現頻度を高めることが示唆された。
94	クエン酸タモキシフェン	閉経後片側性エストロゲンレセプター陽性または不明の乳癌患者4726例を対象にタモキシフェン治療2~3年後のエキセメスタン切替群2320例とタモキシフェン継続投与群2338例を比較したPhase III トライアル (IES試験)において、グレード3または4の副作用が切替群で426例に、継続投与群で411例に認められた。また、心血管疾患により切替群で14例、継続群で8例が死亡した。
95	ドンペリドン	心停止の既往のある患者にはドンペリドンとハロペリドールを投与した場合、心停止のリスクが高くなることが示唆された。
96	マレイン酸チモロール	チモロールゲル化剤が投与された患者において、重篤な異常所見が2例(脛骨メノウ骨折、重傷の徐脈)が見られた。
97	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
98	ケトコナゾール	サルにおいて、経口剤ケトコナゾールとミダゾラム、フェキソフェナジンの併用により、ケトコナゾールとミダゾラムのAUC、Cmaxが増加することが示唆された。
99	コンドロイチン含有一般用医薬品	変形性関節症患者の疼痛に対するコンドロイチンの有用性が低いことが示唆された。
100	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン誘発重度肝毒性患者460例を対象としたプロスペクティブ試験において、劇症肝不全(FHF)が124例に発症し、うち58例が死亡した。
101	デキサメタゾン	超低出生体重時に対する出生後のデキサメタゾンの使用により、大脳など脳の組織体積が減少することが示唆された。
102	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	成人虚血性脳卒中急性期のAHA/ASAガイドラインにおいて、大動脈解離は持続する低血圧を引き起こし、脳卒中の転帰に悪影響を与える可能性があるため、注意が必要である旨が記載された。
103	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の長期投与により、心血管イベントの発生率が高まることが示唆された。
104	ホリナートカルシウム	リンパ節転移陽性の結腸癌第3期を完全切除し、フルオロウラシル/ロイコボリン術後補助療法化学療法を施行した患者227例を対象としたレトロスペクティブ研究において、白血球減少による敗血症を含む死亡例が4例認められた。

	一般的名称	報告の概要
105	レボホリナートカルシウム	未治療進行胃癌および胃食道接合部癌患者38例を対象としたセツキシマブ/フルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカンのPhase II 試験 (FOLCETUX)において、発熱性好中球減少症による死亡例が1例あった。
106	フェニトイン	妊娠中のフェニトイン、フェノバルビタール、ジアゼパムの使用による先天異常の可能性が示唆された。
107	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	進行性胃癌患者42例を対象としたセカンドライン治療としてのマイトマイシン/テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム併用療法のプロスペクティブPhase II 試験において、吐血により1例が死亡した。
108	ホリナートカルシウム	フルオロピリミジン/白金製剤/タキサン系薬剤による治療歴のある進行胃癌患者139例に対するフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン (FOLFIRI)により、好中球減少性敗血症により2例が死亡した。
109	ホリナートカルシウム	化学療法治療歴のある局所進行または転移性結腸直腸癌患者5176例を対象としたオキサリプラチン単独及びオキサリプラチン/フルオロウラシル/ロイコボリン併用療法の6レジメンにおいて、26例の死亡が認められた。
110	ホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ペバシプマブ、ペバシズマブ単独のランダム化比較試験において、FOLFOX4、またはFOLFOX4/ペバシプマブ群でグレード3-5の有害事象が認められた。
111	フルコナゾール	健常人12例を対象としたフルルビプロフェンの薬物動態試験において、フルコナゾール併用により、フルルビプロフェンのクリアランスが有意に減少し、AUCが有意に上昇することが示唆された。
112	ハロペリドール	高齢者にハロペリドールを使用した場合、死亡率が上昇することが示唆された。
113	プラバスタチンナトリウム	プラバスタチン療法を受けた高齢患者において、発癌のリスクが高まることが示唆された。
114	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェンによる薬物性肝障害をおこした24例中、6週間以内に4人が死亡した。
115	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェン中毒により急性肝不全を起こした患者25名のうち、4人が死亡した。
116	ケトプロフェン	NSAIDsの使用により、上部消化管合併症の発症リスクが高まることが示唆された。
117	ゾレドロン酸水和物	閉経後骨粗鬆症患者3889例を対象とした二重盲検プラセボ対照試験において、プラセボ群と比較してゾレドロン酸投与群で重篤な心房細動が有意に多かった。
118	塩酸バンコマイシン	バンコマイシンの最小阻害濃度(MIC)が4 µg/mL以上であるとき、黄色ブドウ球菌の分離株がバンコマイシン治療に反応しないことを示す微生物学および臨床データの増加のため、バンコマイシンのMICブレイクポイントが引き下げられた。
119	エストラジオール	ホルモン補充療法(HRT)は、卵巣癌の発症リスクを高めることが示唆された。
120	ホリナートカルシウム	前治療のない切除可能な転移性結腸直腸癌患者305例を対象としてフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較したランダム化比較試験において、前群で3.3%が、後群で2%が死亡した。
121	ホリナートカルシウム	治癒的切除を行った転移のない直腸癌患者1917例を対象とした併用療法の検討のためのPhase III試験において、フルオロウラシルボース投与群、フルオロウラシル持続静注/放射線併用群、フルオロウラシルボース投与/ロイコボリン/levamisole併用群において各5例ずつが死亡した。



	一般的名称	報告の概要
122	塩酸ラニチジン	新生児集中治療室内に7日間以上入院した新生児において、塩酸ラニチジンの使用が遅発性新生児敗血症の発現を高めることが示唆された。
123	カルジール	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
124	マレイン酸フルボキサミン	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
125	マレイン酸フルボキサミン	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
126	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン中毒によると思われる入院患者中、非企図的服用者18人で劇症肝不全が生じ、8人が死亡した。
127	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンによる薬物性肝障害をおこした24例中、6週間以内に4人が死亡し、うちアセトアミノフェンによる急性肝不全で3人が死亡した。
128	ビタミンE含有一般用医薬品	ビタミンEを含む抗酸化サプリメントの投与は、死亡リスクを高めることが示唆された。
129	イトラコナゾール	健康被検者12例を対象としたネビラピンとイトラコナゾールの併用試験において、イトラコナゾールのC <sub>max</sub> , AUC, T <sub>1/2</sub> が有意に減少した。
130	ケトコナゾール	HIV感染患者において、エファビレンツとケトコナゾールの併用によりケトコナゾールのAUC、C <sub>max</sub> が減少することが示唆された。
131	オメプラゾール	胃食道逆流性疾患に対しオメプラゾールを長期投与すると、酸逆流防止手術を行った群と比較して心血管イベントや心臓関連死がの発現が高まることが示唆された。
132	エボエチンβ(遺伝子組換え)	化学療法を受けた転移性乳癌患者463例を対象とした非盲検無作為化国際多施設共同試験(BRAVE試験)において、エボエチンベータ投与群は非投与群と比較して血栓塞栓症のリスクが高まった。
133	ワルファリンカリウム	非弁膜性心房細動患者667例を対象とした調査において、日本人は欧米人と比較して大量出血および頭蓋内出血の発生率が高いことが示唆された。
134	ホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ベバシズマブ、ベバシズマブ単独のランダム化比較試験において、ベバシズマブ群、FOLFOX4/ベバシズマブ群で中枢神経系の出血、腸管穿孔により各1例が死亡した。
135	BCG膀胱内用(日本株)	非浸潤性膀胱癌患者30例を対象とした研究において、BCG膀胱内注入療法施行時に勃起機能障害のリスクが高まることが示唆された。
136	塩酸イトブリド	機能的消化不良と診断され、内視鏡で器質的な障害が確認されなかった男女で2重盲検プラセボ対象比較試験を行ったところ、イトブリド投与群でプロラクチン上昇傾向が見られた。
137	テガフル・ウラシル	結腸直腸癌の肝転移に術前化学療法を行った406例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝不全、急性呼吸窮迫症候群、脳血管障害、心筋梗塞、凝血異常、胆汁漏出・敗血症、原因不明により11例が死亡した。
138	塩酸セルトラリン	抗うつ剤を使用中の重症うつ病患者のうち、6~18歳で自殺既遂のリスクが増加した。
139	塩酸トラゾドン	抗うつ剤を使用中の重症うつ病患者のうち、6~18歳で自殺既遂のリスクが増加した。

	一般的名称	報告の概要
140	レボホリナートカルシウム	化学療法治療歴のある局所進行または転移性結腸直腸癌患者5176例を対象としたオキサリプラチン単独及びオキサリプラチン/フルオロウラシル/ロイコボリン併用療法の6レジメンにおいて、26例が死亡した。
141	シロスタゾール	健常成人10例を対象とした無作為化非盲検交差試験において、シロスタゾールとイチョウの併用により、出血時間が有意に延長した。
142	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	抗ヒト組み換え型エリスロポエチン抗体に関連した赤芽球ろう患者16例を対象とした試験において、14例がエリスロポエチンアルファを投与していた。
143	グリチルリチン・DL-メチオニン配合剤	一医療機関において10年間に経験した周期性四肢麻痺と低カリウム血性ミオパシー31例について検討を行ったところ、二次性低カリウム性ミオパシーの原因としてグリチルリチンの内服が挙げられた。
144	レボホリナートカルシウム	フルオロピリミジン/白金製剤/タキサン系薬剤による治療歴のある進行胃癌患者139例に対するフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン (FOLFIRI)により、好中球減少性敗血症により2例が死亡した。
145	クエン酸タモキシフェン	ホルモン受容体陽性患者の閉経後女性8028例を対象としたレトロゾールとタモキシフェンによる4つの術後補助内分泌療法Phase III無作為化二重盲検試験の5年間治療の比較の51ヶ月追跡の中間解析結果において、レトロゾール群で骨折、関節痛、高コレステロール血症、心血管イベントの発生率が高く、タモキシフェン群では血管塞栓症、子宮内膜の病理学的異常、ほてり、寝汗、陰出血が多かった。
146	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した乳幼児において、アセトアミノフェンの使用は異常行動、痙攣、熱性痙攣、意識障害の発症リスクを高めることが示唆された。
147	レボホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ペバシマブ、ペバシマブ単独のランダム化比較試験において、FOLFOX4、またはFOLFOX4/ペバシマブ群でグレード3-5の有害事象が認められた。
148	ワルファリンカリウム	ワルファリンを長期投与された患者50例と非投与50例を対象としたレトロスペクティブ研究において、長期のワルファリン治療を受けた男性患者で組織石灰化の有意な増加が認められた。
149	タクロリムス水和物	HTLV-1関連脊髄症 (HAM)患者5例を対象としてタクロリムスの治療効果を検討したところ、細胞あたりのHTLV-1転写活性化因子の発現が増加し、成人T細胞白血病罹患率を増大させることが示唆された。
150	塩酸ミトキサントロン	再発性視神経脊髄炎患者33例を対象とした免疫抑制療法の有効性の検討において、1例がミトキサントロン初回投与33ヵ月後に骨髄性急性白血病を発生した。
151	塩酸ミトキサントロン	活動性多発性硬化症患者292例を対象とした調査において、心筋梗塞により1例が死亡した。
152	ナルトグラスチム (遺伝子組換え)	再生不良性貧血に対する一次治療として免疫抑制療法を施行された840例を対象としたアンケート調査において、45歳以上の患者とG-CSF投与が骨髄異形成症候群あるいは急性骨髄性白血病のリスクであることが示唆された。
153	ホリナートカルシウム	治癒的切除を行った転移のない直腸癌患者1917例を対象とした併用療法の検討のためのPhase III試験において、フルオロウラシルポーラス投与群、フルオロウラシル持続静注/放射線併用群、フルオロウラシルポーラス投与/ロイコボリン/levamisole併用群において各5例ずつが死亡した。
154	メトレキサート	中枢神経系原発リンパ腫患者88例を対象とした高用量メトレキサート+シタラピンをベースとした全身的療法の第2相パイロット研究において、7例が治療関連の合併症により、死亡した。
155	レボホリナートカルシウム	前治療のない切除可能な転移性結腸直腸癌患者305例を対象としてフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較したランダム化比較試験において、前群で3.3%が、後群で2%が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
156	ヒドロキシエチルデンプン配合剤	重症敗血症患者537例を対象とした調査の中間解析において、乳酸リンゲル液の急速輸液とヒドロキシエチルスターチの急速輸液を比較したところ、急性腎不全と腎代償療法の頻度が有意に後群で高く、腎臓の有害事象とHESの蓄積量の関連が示唆された。
157	ドンペリドン	心停止の既往のある患者にはドンペリドンとハロペリドールを投与した場合、心停止のリスクが高くなることが示唆された。
158	エストラジオール	ホルモン補充療法(HRT)は、卵巣癌の発症リスクを高めることが示唆された。
159	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
160	イブプロフェン含有一般用医薬品	変形性関節症患者でイブプロフェンを投与された群で、心血管イベントの発症リスクが高まることが示唆された。
161	乾燥濃縮人活性化プロテインC	2003年3月～2004年2月までに活性型ドトロコギン・アルファ投与を受けた重症感染症患者261例を対象としたレトロスペクティブ調査において、25例に重度の出血が起こり、うち1例が頭蓋内出血を起こし、死亡した。
162	レボホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ペバシマブ、ペバシマブ単独のランダム化比較試験において、ペバシマブ群、FOLFOX4/ペバシマブ群で中枢神経系の出血、腸管穿孔により各1例が死亡した。
163	ジクロフェナクナトリウム	骨関節炎の患者においてエトリコキシブとジクロフェナクの消化管の忍容性を比較したところ、エトリコキシブの方が良好な忍容性を示した。
164	塩酸ゲムシタビン	一医療機関において、2002年以降にゲムシタビンを投与された患者224例のうち、3例(1.4%)に血栓性微小血管症が見られ、6ヶ月以上投与された患者55例に限定してみると累積発生率は5.5%であった。
165	サキナビル	HIV感染結核感染患者22例を対象としたオープンラベル単群連続薬物動態試験において、リファンピシンとイソニアジドの併用で、サキナビルやリトナビルのAUCなどが減少した。
166	メシル酸サキナビル	HIV感染結核感染患者22例を対象としたオープンラベル単群連続薬物動態試験において、リファンピシンとイソニアジドの併用で、サキナビルやリトナビルのAUCなどが減少した。
167	黄熱ワクチン	1999年から2005年に報告された黄熱ワクチン予防接種後有害事象症例を解析したところ、無菌性髄膜炎の発生率が2001年に増加した。
168	アセトアミノフェン	小児の最近12ヶ月でのアセトアミノフェンの使用は、鼻炎と関連することが示唆された。
169	ハロペリドール	高齢者にハロペリドールを使用した場合、死亡率が上昇することが示唆された。
170	塩酸セルトラリン	自殺企図で入院した精神病の既往のない患者を追跡調査したコホート研究において、過去に抗うつ剤を使用していた患者は、現在抗うつ剤を使用している患者よりも自殺企図のリスクが高まることが示唆された。
171	ナプロキセン	骨関節炎と診断された患者群において、NSAIDsの投与は心血管イベント、脳血管イベントの発症リスクを高めることが示唆された。
172	塩酸バンコマイシン	イランで実施中のブドウ球菌多剤耐性に関する大規模調査でバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が単離された。
173	塩酸バンコマイシン	カナダで初めてMRSAでのバンコマイシン感受性低下が報告された。

	一般的名称	報告の概要
174	ホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者126例を対象とした術前化学療法 (CTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸)と術前化学放射線併用療法 (CRTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸/エトポシド/放射線)を比較するランダム化Phase III試験において、手術後にCTX群で5例、CRTX群で5例が死亡した。
175	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン時間調節療法 (chronoFLOレジメン)とイリノテカンとの併用療法を検討するランダム化試験において、3例が死亡した。
176	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者627例を対象としたセカンドライン治療としてのカペシタビン/オキサリプラチン (XELOX)とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン (FOLFOX4)を比較したPhase III試験において、60日間の全死亡率がXELOXで3.9%、FOLFOX4で4.2%であった。
177	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊娠中の母体への硫酸マグネシウムの投与により、超低出生体重児の動脈管開存症発症のリスクが高まることが示唆された。
178	ホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/葉酸 (FUFOX)併用療法のPhase II試験において、過敏症反応と敗血症性下痢症で2例が死亡した。
179	アセトアミノフェン	高濃度のアセトアミノフェン溶液内でヒトリンパ球を単離培養したところ、染色体異常誘発活性の起こることが示唆された。
180	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の初回使用時の年齢が早い場合、若年齢での乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
181	メトレキサート	小児、青年期におけるハイリスク中枢神経系B細胞リンパ腫患者296例を対象としたFAB/LMB療法、または強化低下療法の無作為化比較試験において、死亡が認められた。
182	エストラジオール	閉経後ホルモンの使用により、全身性エリテマトーデス (SLE)の発症リスクが高まることが示唆された。
183	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン (CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhase III試験において、両群で各3例死亡した。
184	ホリナートカルシウム	転移性結腸癌患者を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン/panitumumab併用療法を検討したPhase II試験において、麻痺性イレウスにより1例が死亡した。
185	ホリナートカルシウム	転移性胃癌患者31例を対象としたドセタキセル/シスプラチン/葉酸/フルオロウラシル併用療法のPhase II試験において、腸穿孔と敗血症により2例が死亡した。
186	エストロゲン〔結合型〕	ホルモン補充療法 (HRT)は、卵巣癌の発症リスク及び卵巣癌の死亡リスクを高めることが示唆された。
187	アモキシシリン	ヒト胃癌細胞を用いたin vitro試験において、アモキシシリン投与が細胞内活性酸素種を誘導し、DNAを損傷させることが示唆された。
188	塩酸セルトラリン	冠動脈性心疾患の既往のない大うつ病性障害の患者にSSRIを投与したところ、健常人と比較して心臓反反射機能と心拍変動が低下し、脈圧、高感度C反応性タンパク (hsCRP)が上昇したことから、心疾患発症リスクを高めることが示唆された。
189	インターフェロン ベータ-1a (遺伝子組換え)	一医療機関において多発性硬化症と診断された患者113例を調査したところ、長大な脊髄病巣を有する抗アクアボリン4抗体陽性患者では、インターフェロンβの効果が少ないことが示唆された。
190	シンバスタチン	健康成人12人において、塩酸アミオダロン投与後にシンバスタチンを投与すると、シンバスタチンのAUC、Cmax、t1/2が上昇した。

	一般的名称	報告の概要
191	ワルファリンカリウム	ワルファリンによる治療を受けている患者2731例を対象としたプロスペクティブコホート研究において、59歳以下の患者に比べて80歳以上の患者では大量出血のリスクが約4倍、致死的な出血のリスクが約9倍高かった。
192	ガドペンテト酸メグルミン	MRI用ガドリニウム含有造影剤と腎性全身性繊維症/腎性繊維化性皮膚症(NSF/NFD)に関する前臨床試験結果が報告された。
193	テモゾロミド	一医療機関において、再発glinoma患者7例にテモゾロミドを投与したところ、全例にアルブミン上昇が認められた。
194	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
195	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェンの中毒事故による急性肝不全で2名が死亡した。
196	フルコナゾール	健康成人18例を対象とした無作為化反復投与クロスオーバー併用試験において eplerenone 投与により、フルコナゾールのCmax,AUC、血中半減期が増加した。
197	ガドペンテト酸メグルミン	ガドペンテト酸メグルミン投与に関連した腎性全身性繊維症・腎性繊維化性皮膚症(NSF・NFD)78例のサマリーとして、FDAの要求に応じ提出した資料が報告された。
198	レボホリナートカルシウム	転移性結腸癌患者を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン/panitumumab併用療法を検討したPhase II 試験において、麻痺性イレウスにより1例が死亡した。
199	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌の肝転移に術前化学療法を行った406例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝不全、急性呼吸窮迫症候群、脳血管障害、心筋梗塞、凝血異常、胆汁漏出・敗血症、原因不明により11例が死亡した。
200	ホリナートカルシウム	難治性膵癌患者17例、胆管癌患者8例、結腸直腸癌患者3例、胃癌患者2例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イマチニブまたはフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/イマチニブのPhase I 用量漸増試験において膵癌患者1例が白血球減少症、顆粒球減少症、血小板減少症、好中球減少性発熱をきたし、多臓器不全により死亡した。
201	ナプロキセン	16歳未満の若年性特発性関節炎(JIA)患者において、早期発症関節型関節炎はナプロキセン誘発性ボルフィリン症をおこす危険因子となることが示唆された。
202	ホリナートカルシウム	ステージII,IIIの結腸癌患者2492例を対象として、術後アジュバント療法としてのweeklyフルオロウラシル/ロイコボリン療法とweeklyフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較するPhase III試験において、腸障害により前群で5例、後群で1例死亡した。また、化学療法開始後60日以内の死亡例は全体で28例であった。
203	ジドブジン	一医療機関において、QTc>440msecのHIV感染外来患者64例(ケース)とQTc≤440msecのHIV感染外来患者256例(コントロール)を対象としたケースコントロール研究において、ネルフィナビルベースの治療、又はエファビレンツベースの治療にジドブジンを併用する群、併用しない群と比較してQTc間隔延長リスクが約3倍増加することが示唆された。
204	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者627例を対象としたセカンドライン治療としてのカペシタビン/オキサリプラチン(XELOX)とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン(FOLFOX4)を比較したPhase III試験において、60日間の全死亡率がXELOXで3.9%、FOLFOX4で4.2%であった。
205	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン時間調節療法(chronoFLOレジメン)とイリノテカンとの併用療法を検討するランダム化試験において、3例が死亡した。
206	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、市中肺炎発症リスクが上昇し、中でも使用開始直後はリスク上昇率が高いことが示唆された。
207	グリベンクラミド	健康人12例を対象としたプラセボ対照無作為化3相交差試験において、クラリスロマイシンとグリベンクラミドの併用でグリベンクラミドの血漿中濃度が増加することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
208	ホスフェストロール	母親が妊娠中にジエチルスチルベストロールを投与されている場合、新生児で尿道下裂の発症リスクが高まることが示唆された。
209	臭化パンクロニウム	先天性横隔膜ヘルニアの患者でECMO非施行例において、パンクロニウムの投与量が高い、または使用日数が長い場合は難聴となる可能性が高まることが示唆された。
210	臭化パンクロニウム	臭化パンクロニウムを投与された、重症の先天性横隔膜ヘルニアの患者4名で、投与遅発性感音性難聴が見られた。
211	カルバマゼピン	カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタールの投与で発疹が発現した現疾患の確定可能な0-8歳の入院患者でHLAを検討したところ、HLA-A*2402が最も多く、HLA-C*0102が次に多かった。
212	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
213	アルプロスタジル	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽バーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
214	カプロン酸ヒドロキシプロゲステロン	経口プロゲステロンの4.5年を越える長期の使用は、閉経前の女性の乳癌発症リスクを高めることが示唆された。
215	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリリテカン(CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhase III試験において、両群で各3例死亡した。
216	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/葉酸(FUFOX)併用療法のPhase II試験において、過敏症反応と敗血症性下痢症で2例が死亡した。
217	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者31例を対象としたドセタキセル/シスプラチン/葉酸/フルオロウラシル併用療法のPhase II試験において、腸穿孔と敗血症により2例が死亡した。
218	レボホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者126例を対象とした術前化学療法(CTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸)と術前化学放射線併用療法(CRTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸/エトポシド/放射線)を比較するランダム化Phase III試験において、手術後にCTX群で5例、CRTX群で5例が死亡した。
219	プレドニゾン	プレドニゾンを含む免疫抑制剤の投与を受けている女性は、肛門性器腫瘍を有する率が高いことが示唆された。
220	イトラコナゾール	健康被検者12例を対象としたネビラピンとイトラコナゾールの併用試験において、イトラコナゾールのCmax,AUC,T1/2が有意に減少した。
221	エストラジオール	閉経後ホルモンの使用により、全身性エリテマトーデス(SLE)の発症リスクが高まることが示唆された。
222	ケトコナゾール	健康人において、ケトコナゾールとprasugrelやクロピドグレルを併用すると、クロピドグレル代謝物のCmax、AUCを減少させることが示唆された。
223	イトラコナゾール	ヒツジを用いた比較試験において、胃内投与によりイベルメクチンとイトラコナゾールを併用すると、イベルメクチンのAUC,Cmaxが有意に上昇した。
224	塩酸バンコマイシン	サンフランシスコにてバンコマイシン耐性菌(MIC8 μg/mL)が分離された。
225	塩酸バンコマイシン	インドにて糖尿病患者から分離されたオキサシリン、ゲンタマイシン耐性黄色ブドウ球菌がバンコマイシン耐性を示した(MIC8 μg/mL)。
226	塩酸ミトキサントロン	ダウン症の急性骨髄性白血病患者57例を対象とした調査において、RSウイルス敗血症、うっ血性心不全、呼吸器疾患、原因不明で6例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
227	塩酸ミキサントロン	再発/難治性の非M3-急性骨髄性白血病患者23例に対する本剤を含む化学療法において、細菌感染症により3例が、小脳性運動失調症による感染により1例が死亡した。
228	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	小児骨髄性白血病患者17例を対象としたレトロスペクティブ研究において、ゲムツズマブオゾガマイシン/シタラビン併用により1例が侵襲性アスペルギルス症により死亡した。
229	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	急性骨髄性白血病患者115例を対象としたゲムツズマブオゾガマイシンと導入療法の併用を検討したランダム化比較試験において、導入化学療法による死亡が本剤併用群で8%、非併用群で7%あった。
230	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	原発性難治性骨髄性白血病患者264例を対象としてサルベージ療法にオールトランスレチノイン酸およびゲムツズマブ・オゾガマイシンの併用を検討した第2相試験において、死亡が認められた。
231	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	難治性および再発性急性骨髄性白血病患者45例を対象としたゲムツズマブ・オゾガマイシン/Arscytin/ミキサントロン(MIDAMレジメン)の有効性を検討した多施設共同研究において、31例が死亡した(白血病、感染、急性GVHD、多臓器不全、脳出血、VOD)。
232	塩酸セフェピム	セフェピムと他のβ-ラクタム系抗生物質の無作為化比較臨床試験57件を対象としたメタアナリシスにおいて、全死亡率が本剤で他のβ-ラクタム系抗生物質よりも高かった。
233	アルプロスタジルアルファデクス	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽パーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
234	ホリナートカルシウム	前治療のない手術不能な肝内胆管癌患者17例、胆嚢癌患者13例を対象としたフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン併用療法を検討するプロスペクティブ研究において、1例がグレード4の下痢を発現し、敗血症により死亡した。
235	エストラジオール	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
236	リバピリン	重症急性呼吸器症候群患者306例を対象とした後ろ向きコホート研究において、リバピリン投与が貧血、低マグネシウム血症、徐脈と有意に関連していた。
237	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、全身性エリテマトーデスの発症が高まることが示唆された。
238	メトレキサート	小児未分化大細胞型リンパ腫患者375例を対象としたランダム化試験において、BFM-K2+髄腔内メトレキサート投与群とBFM-K2+髄腔内メトレキサート非投与群で比較を行なったところ、それぞれ2例、3例が死亡した。
239	メトレキサート	小児及び青年期進行性リンパ芽球性リンパ腫患者85例を対象とした強力多剤化学療法及び非交差抵抗性維持療法において、4例が死亡した。
240	メトレキサート	小児急性骨髄性白血病患者1709例を対象として二次性悪性腫瘍リスクを検討したところ、メトレキサート及び6-メルカプトプリンによる維持療法期間が長くなるとリスクが高まることが示唆された。
241	メトレキサート	急性前骨髄性白血病患者582例を対象としたランダム化第3相試験において、10例が死亡した。
242	メトレキサート	未治療の急性リンパ性白血病患者61例を対象とした多施設第II相試験において、敗血症、肺炎で2例が死亡した。
243	メシル酸ドキサゾシン	術前3ヶ月以内にドキサゾシンを服用した患者27例(31眼)の37%(45%)で、手術中に虹彩緊張低下症候群(IFIS)が起こった。
244	メトレキサート	再発急性リンパ芽球性白血病患者127例を対象とした化学療法の比較試験において、ピンクリスチン/プレドニゾン/PEG-アスパラキナーゼ/ドキシソルピシン/髄腔内シタラビンおよびメトレキサートまたは3剤による髄腔内療法と高用量シタラビン/L-アスパラキナーゼ療法においてそれぞれ3例、2例が感染により死亡した。
245	メトレキサート	散発性パーキットリンパ腫患者66例を対象としたコホート研究において、メトレキサートを含む治療により、3例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
246	メトトレキサート	原発性精巣リンパ腫患者24例を対象としたコホート研究において、ドキソルビシンパールの化学療法/髄腔内メトトレキサート/放射線療法により3例が死亡した。
247	ケトプロフェン	光パッチテスト陽性者において、ケトプロフェンが光アレルギー抗原であることが示唆された。
248	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
249	ブスルファン	血液がん患者130例に対する1日1回静注ブスルファンとフルダラビン併用移植前処置レジメンにおいて、ブスルファンのAUCが6000 $\mu$ M $\cdot$ min/日以上上昇した群において推定全死亡率の低下、非再発生存率と非増悪生存率の低下が認められた。
250	ブスルファン	幹細胞移植を実施した470例において、血漿中濃度によるブスルファンの用量調節群で静脈閉塞性肝疾患や出血性膀胱炎の発症が減少した。
251	アルプロスタジル	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽パーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
252	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
253	アセトアミノフェン	ワルファリンを投与されてINRの安定している患者にアセトアミノフェンを併用させたところ、INRが上昇した。
254	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
255	塩酸クレンブテロール	妊娠期間中の喘息治療薬の使用により、妊娠合併症の発症リスクが高まり帝王切開術の割合が高くなることが示唆された。
256	メシル酸デラルビジン	ブプレノルフィン/ナロキソンで維持されているオピオイド依存のHIV陰性ボランティア20例を対象とした薬物動態試験において、デラルビジン併用により、ブプレノルフィンの血中濃度を増加させ、エファビレンツはブプレノルフィンのAUCを低下させた。
257	ピラゾロン系解熱鎮痛消炎配合剤 (4)	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
258	アスパルテーム含有一般用医薬品	妊娠中にアスパルテームを投与された雌ラットから生まれた仔に継続してアスパルテームを投与したところ、リンパ腫・白血病発症率が用量依存的に増加し、雌での乳癌発症率が高まることが示唆された。
259	ホリナートカルシウム	ステージII,IIIの結腸癌患者2492例を対象として、術後アジュバント療法としてのweeklyフルオロウラシル/ロイコボリン療法とweeklyフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較するPhaseIII試験において、腸障害により前群で5例、後群で1例死亡した。また、化学療法開始後60日以内の死亡例は全体で28例であった。
260	ウロキナーゼ	ウロキナーゼによる治療を受けている脳梗塞患者294例を対象とした追跡調査において、14例に重篤な脳出血が認められた。
261	塩酸トリメキノール	妊娠時に抗喘息薬の使用経験のある女性において早産のリスクが増加し、また生まれた乳児は、低体重または在胎期間中の未熟リスクが増加することが示唆された。
262	プレドニゾン	真菌乾癬前の低用量のプレドニゾン投与または真菌感染後の高用量のプレドニゾンは死亡原因と関連があることが示唆された。
263	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者53例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/ペバシズマブ併用のPhaseII試験において、不整脈と詳細不明で2例が死亡した。



	一般的名称	報告の概要
264	ジアゼパム	小児の持続的痙攣に対するジアゼパム坐剤とミダゾラムバツカル剤を比較するランダム化盲検試験において、4例が死亡した。
265	ワルファリンカリウム	機械弁置換患者550例を対象としたコホート研究において、ワルファリン中用量群、高用量群と比較して、低用量群で出血リスクが高かった。
266	レボホリナートカルシウム	前治療のない手術不能な肝内胆管癌患者17例、胆嚢癌患者13例を対象としたフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン併用療法を検討するプロスペクティブ研究において、1例がグレード4の下痢を発現し、敗血症により死亡した。
267	レボホリナートカルシウム	難治性膵癌患者17例、胆管癌患者8例、結腸直腸癌患者3例、胃癌患者2例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イマチニブまたはフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/イマチニブのPhase I 用量漸増試験において膵癌患者1例が白血球減少症、顆粒球減少症、血小板減少症、好中球減少性発熱をきたし、多臓器不全により死亡した。
268	塩酸セルトラリン	妊娠初期にセルトラリンを投与された母親から、4例の無脳症の児が見られた。
269	塩酸セルトラリン	妊娠第1期のセルトラリンの投与は、児の臍胎ヘルニアや中隔欠損と関連することが示唆された。
270	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ヒト上皮増殖因子受容体2型(HER2)陽性早期乳癌患者155例を対象として、一次化学療法後に本剤を投与する逐次投与群と併用投与群と比較したところ、前群で21.6%の心臓関連の有害事象が認められた。
271	塩酸バンコマイシン	2006年1月に世界で6件目のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が患者から単離された。
272	トレチノイン	妊娠マウスヘレチノイン酸を投与したところ、新生児精巢にアポトーシス陽性細胞の増加が認められた。
273	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	HER2陽性の早期乳癌患者に対する補助療法について系統的レビューおよびメタアナリシスを行なったところ、トラスツズマブ投与患者でステージ3/4のうっ血性心不全のリスクが有意に増加し、左室駆出率が有意に低下した。
274	アセトアミノフェン	ロジスティック回帰分析により、ステープンズジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症の発症を高める医薬品としてカルバマゼピンとアセトアミノフェンが示唆された。
275	ニフェジピン	カルシウム拮抗剤の使用は、胃食道逆流症および併発する非心臓性胸痛の原因である可能性が示唆された。
276	アセトアミノフェン	6-7歳の小児において、生後12ヶ月以内および直近12ヶ月以内のアセトアミノフェンの使用は喘息と関連のあることが示唆された。
277	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
278	シロドシン	健康成人男性を対象としたシロドシンによる射精障害の発生機序を検討した臨床研究において、射精障害は逆行性射精よりは射出障害によるものであることが示唆された。
279	テガフル・ウラシル	切除可能進行下咽頭扁平上皮癌患者40例を対象として、CF-MTX-LV療法(シスプラチン/フルオロウラシル/メトレキサート/ホリナートカルシウム)+放射線療法とCBDCA-UFT療法(カルボプラチン/テガフル・ウラシル)+放射線療法を比較したところ、Grade4の有害事象は前群で好中球減少5例、血小板減少1例、感染1例であり、後群では感染1例であった。
280	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
281	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
282	エストラジオール	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
283	ケトプロフェン	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
284	パミドロン酸二ナトリウム	パミドロン酸あるいはゾレドロン酸を静脈内投与したがん患者14349例と非使用者28698例をSEERプログラムのデータを用いて解析したところ、静注用ビスホスホネート使用群で顎又は顔面骨の手術リスクや顎の炎症状態または骨髄炎と診断されるリスクが有意に増加し、累積投与量の増加に伴い、リスクが増加した。
285	イホスファミド	ユーイング肉腫患者578例を対象とした無作為化あるいは非無作為化比較試験において、イホスファミドとシクロホスファミドとドキソルビシンの高用量併用により骨髄異形成症候群あるいは急性骨髄性白血病のリスクが増加することが示唆された。
286	ニフェジピン	カルシウム拮抗剤の使用は、胃食道逆流症および併発する非心臓性胸痛の原因である可能性が示唆された。
287	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
288	リファンピシム	健康男性10例を対象とした非盲検無作為化二方向性クロスオーバー試験において、リファンピシムとリスペリドンの併用により、リスペリドンのAUCや最高血漿中濃度が有意に減少した。
289	塩酸イリノテカン	日本人がん患者177例に対するイリノテカン単独療法、あるいは併用化学療法において、UGT1A*6あるいは*28の変異型を有する患者では重度の好中球減少のリスクが高いことが示唆された。
290	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
291	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、乳癌の発症リスクを増加させることが示唆された。
292	塩酸イリノテカン	日本人がん患者177例に対するイリノテカン単独療法、あるいは併用化学療法において、UGT1A*6あるいは*28の変異型を有する患者では重度の好中球減少のリスクが高いことが示唆された。
293	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、胃食道逆流症の病歴をもつ若年成人の胃食道逆流症状のリスク要因になる可能性がある。
294	エストラジオール	高齢女性へのホルモン補充療法は、心臓発作と脳卒中のリスクを高めることが示唆された。
295	ワルファリンカリウム	経口抗血栓剤を服用している心臓血管疾患および脳血管疾患患者3980例を対象とした多施設観察研究において、ワルファリン+抗血小板剤併用群ではワルファリン群と比較して、生命を脅かす出血の発現率(/1000人年)が抗血小板剤単独では5.8、抗血小板剤多剤併用では9.9、ワルファリンでは10.3、ワルファリン+抗血小板剤併用では19.1であった。
296	メトトレキサート	未治療のマントル細胞リンパ腫患者79例を対象としたリツキシマブ/メトトレキサート/強化CHOP/EARによる地固め療法において2例が死亡した。
297	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者53例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/ペバシズマブ併用のPhase II 試験において、不整脈と詳細不明で2例が死亡した。
298	ナプロキセン	ナプロキセンナトリウムの服用は、心血管系および脳血管系イベントの発症を高めることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
299	ヨウ化プラリドキシム	日本臨床検査薬協会の統一プロトコールで各種血糖測定器を用いて行なわれたヨウ化プラリドキシムの血糖測定値に対する影響度の確認において、治療域と考えられる濃度範囲においても偽高値が認められた。
300	塩酸ミキサントロン	多発性骨髄腫患者35例を対象とした高用量メルファラン+ミキサントロン併用療法において、1例が敗血症により死亡した。
301	メトトレキサート	再発性または難治性非ホジキンリンパ腫患者135例を対象として高用量維持療法(HDS)にリツキシマブ追加の有用性を検討したレトロスペクティブ調査において、HDS群で1例が膀胱癌により、R-HDS群で骨髄異形成症候群、甲状腺癌により2例が死亡した。
302	塩酸ミキサントロン	Grade3-4のマントル細胞リンパ腫患者30例を対象としたフルダラビン/シクロホスファミド/ミキサントロン/リツキシマブによる寛解後、90Y-Ibritumomab Tiuxetanによる強化療法を行なった試験において、1例が脳出血で死亡した。
303	ホスフェストロール	ジェチルスチルベストロールを母親の胎内で曝露された女性において、食道閉鎖症・気管食道ろうの子供が生まれる可能性が示唆された。
304	エストリオール	高齢女性へのホルモン補充療法は、心臓発作と脳卒中のリスクを高めることが示唆された。
305	ジアゼパム	小児遷延痙攣患者において、ジアゼパム直腸投与とミダゾラム経口投与の有効性、安全性を比較する中間解析のなかで、2人が呼吸抑制となり4人が死亡した。
306	塩酸ミキサントロン	マントル細胞リンパ腫患者73例を対象として高齢者群と非高齢者群に分けてリツキシマブ追加の高用量連続化学療法(R-HDS)を検討したところ、非高齢者群で1例が治療中に骨髄異形成症候群により死亡した。
307	塩酸ミキサントロン	ホルモン不応性前立腺癌患者63例を対象としたドセタキセル/ミキサントロン併用療法のプロスペクティブ多施設Phase II試験において、1例がリステリア性髄膜炎、2例が心筋梗塞により死亡した。
308	リスペリドン	健康被験者32例で、リスペリドンの後発品の経口溶液とリスペリドン錠剤のバイオアベイラビリティを比較したところ、後発品および先発品の錠剤の間での生物学的同等性は証明されなかった。
309	リスペリドン	健康男性において、CYP3Aの誘導剤であるリファンピシンとリスペリドンを併用したところ、リスペリドンと9-ヒドロキシリスペリドンのAUC、Tmaxが低下した。
310	リスペリドン	統合失調症患者において、リスペリドンの投与によりQT間隔が延長することが示唆された。
311	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
312	ブスルファン	HLA一致血縁ドナーによる同種幹細胞移植の患者70例を対象とした前向き試験において、可逆性血栓性血小板減少性紫斑病および溶血性尿毒症症候群が前処置としてブスルファン/シクロホスファミドを用いた群が、FTBI/VP-16群、Fle/Mel群よりも発症頻度が高かった。
313	ブスルファン	造血幹細胞移植患者60例を対象とした前処置として静注ブスルファンを1日4回投与群と1日1回投与群を比較した無作為化比較試験において、両群に肝中心静脈症が両群に認められた。

	一般的名称	報告の概要
314	ブスルファン	ブスルファンを含む全処置で同種造血幹細胞移植患者151例を対象としたレトロスペクティブ研究において、Grade3-4の重度の高ビリルビン血症を起こした患者では予後が悪かった。
315	ブスルファン	血液悪性腫瘍患者84例に対する10/10一致非血縁ドナーによるフルダラビン/1日1回静注ブスルファン/胸腺グロブリンを骨髄破壊的前処置として用いた造血幹細胞移植において、血小板生着不全により死亡した。
316	酒石酸エルゴタミン・無水カフェイン (1)	健康成人において、ゾルピデムとカフェインの併用により、ゾルピデムのAUC、Cmaxが上昇することが示唆された。
317	インドメタシン	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
318	ヨウ化ブラリドキシム	ヨウ化ブラリドキシム投薬患者の血糖測定において、偽高値を示した事故発現施設使用機と基準機を用いて、偽高値を示す原因を調査したところ、事故発現施設使用機ではヨウ素の感受性が高かった。
319	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	局所脳虚血誘発マウスを用いたin vivo研究において、rt-PA誘発性虚血性脳損傷の悪化にポリADP-リボースの活性化増大が関与することが示唆された。
320	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
321	ホリナートカルシウム	予後不良進行結腸直腸癌患者2135例を対象としたランダム化臨床試験(MRC FOCUS試験)において、24例が死亡した。
322	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者54例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン療法とイリノテカン併用療法を検討するPhase II試験において、1例が消化器毒性とGrade4の好中球減少症を伴う肺水腫により死亡した。
323	ワルファリンカリウム	リコンビナントP450酵素を用いたハイスループット阻害スクリーニング研究において、市販のグレープフルーツ種子エキスのP450阻害降下を調査したところ、含有している塩化ベンザルコニウムがin vitroにおいて、CYP3A4とCYP2C9の強力に阻害した。
324	塩酸シプロフロキサシン	12例の被験者を対象とした無作為化オープンラベル二方向交差試験において、シプロフロキサシンと炭酸ランタンを併用した際にシプロフロキサシンのバイオアベイラビリティが有意に減少した。
325	エストラジオール	閉経後ホルモン補充療法(HRT)を行っている患者において、経口避妊薬の過去の前使用者は非使用者よりも乳癌発症のリスクが高まることが示唆された。
326	プロピルチオウラシル	プロピルチオウラシルの初期投与量について検討を行ったところ、国内での本剤の初回投与量は推奨されないという結果に至った。
327	チアマゾール	チアマゾールの初期投与量について検討を行ったところ、国内での本剤の初回投与量は推奨されないという結果に至った。
328	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。

	一般の名称	報告の概要
329	ホリナートカルシウム	進行性胃癌患者141例を対象とした高用量フルオロウラシルレジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸併用レジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンを比較するランダム化Phase II 試験において、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンにおいて、1例が胃内容物の誤嚥による両側性肺炎により死亡した。
330	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に直接tPAを還流したところ、tPAが持続的に細胞外に存在することにより、ニューロンの損傷及び血液脳関門の破壊を起こすことが示唆された。
331	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	再発急性骨髄性白血病患者58例を対象としたレトロスペクティブ研究において、治療関連死が報告された。
332	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	転移性結腸直腸癌、乳癌および非小細胞肺癌患者1715例を対象とした5つの無作為化コントロール試験の併合解析により、動脈血栓塞栓症のリスク因子として、動脈血栓塞栓症の既往を持つ患者、65歳以上の患者およびベバシズマブの使用があげられた。
333	吉草酸デキサメタゾン	出生直後に全身ステロイド剤長期投与を受けた早産児を平均8歳まで経過観察したところ、神経運動機能および認知機能が低下することが示唆された。
334	カンデサルタンシレキセチル	種々の心血管治療薬と自殺のリスク上昇と関連についてコホート内症例対照研究を行ったところアンジリテンシン II 受容体拮抗薬の使用により、5例の死亡例が見られた。
335	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	Burn Centerの医療記録およびコンピューターデータベースをレトロスペクティブに調査したところ、組織学的に中毒性表皮壊死症の診断を受けた32例のうち、10例が癌を有しており、うち1例がピペラシリンの投与を受けていた。
336	ジノプロストンベータデクス	プロスタグランジンE2膾錠とオキシトシンの併用により、過強陣痛、羊水混濁、子宮出血、発熱が見られた。
337	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の使用により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
338	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に直接tPAを還流したところ、tPAが持続的に細胞外に存在することにより、ニューロンの損傷及び血液脳関門の破壊を起こすことが示唆された。
339	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	局所脳虚血誘発マウスを用いたin vivo研究において、rt-PA誘発性虚血性脳損傷の悪化にポリADP-リボースの活性化増大が関与することが示唆された。
340	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の使用により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
341	ケトプロフェン	非ステロイド性抗炎症剤の使用により、消化管イベントの発症リスクが高まることが示唆された。
342	ピペラシリンナトリウム	Burn Centerの医療記録およびコンピューターデータベースをレトロスペクティブに調査したところ、組織学的に中毒性表皮壊死症の診断を受けた32例のうち、10例が癌を有しており、うち1例がピペラシリンの投与を受けていた。
343	塩酸イリノテカン	フルオロウラシルおよびイリノテカンアジュバント化学療法レジメンを受けているハイリスク、ステージⅢの結腸癌患者400例を対象としたプロスペクティブ無作為化試験において、UGT1A1-3156G)A遺伝子突然変異型を有する患者では重度な血液学的毒性あるいは好中球減少の発現が有意に高いことが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
344	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン	本剤の単独接種または本剤を含む複数ワクチンの同時接種を受けた新生児98例を対象とした接種後3日間の心肺機能及びC-反応性蛋白値測定において、心肺疾患事象およびC-反応性蛋白値異常が認められた。
345	レボホリナートカルシウム	進行性胃癌患者141例を対象とした高用量フルオロウラシルレジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸併用レジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンを比較するランダム化Phase II 試験において、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンにおいて、1例が胃内容物の誤嚥による両側性肺炎により死亡した。
346	レボホリナートカルシウム	予後不良進行結腸直腸癌患者2135例を対象としたランダム化臨床試験 (MRC FOCUS試験)において、24例が死亡した。
347	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者54例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン療法とイリノテカン併用療法を検討するPhase II 試験において、1例が消化器毒性とGrade4の好中球減少症を伴う肺水腫により死亡した。
348	塩酸メトホルミン	長期治療を受けている2型糖尿病患者1493例を対象としたレトロスペクティブ研究において、メトホルミン非服用者と比較してメトホルミン服用者では腎機能低下のリスクが高いことが示唆された。
349	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	ベバシズマブ投与後に肺高血圧症を発現した症例が全世界で8例報告された。
350	イトラコナゾール	肺移植後患者17例を対象とした単施設プロスペクティブコントロール研究において、吸入フルチカゾンとイトラコナゾール併用試験を行ったところ、イトラコナゾール非併用群と比較してイトラコナゾール併用群で有意にフルチカゾンの血中濃度が増加した。
351	塩酸ベラパミル	12人の健康な被験者においてベラパミルとテジサミルを併用すると、QT延長やPR間隔延長が起こることが示唆された。
352	シンバスタチン	in vitro及び臨床試験において、ラノラジンとHMG-CoA還元酵素阻害剤を併用した場合、HMG-CoA還元酵素阻害剤のIC50が減少し、臨床試験においてはシンバスタチンのAUC増加が起こることが示唆された。
353	プロポフォール	心房細動の患者で、長時間のプロポフォールの投与下で非外科的高周波カテーテルアブレーションをうけた場合、代謝性アシドーシスの発症リスクが高まることが示唆された。
354	メトレキサート	急性リンパ性白血病患者を対象としたメトレキサート髄腔内投与において、重篤な神経毒性が発現した。
355	メトレキサート	病理学的にステージIIと診断された男性乳癌患者31例を対象としたプロスペクティブ研究において、治療により1例が死亡し、7例に二次がんが認められた。
356	エストラジオール	閉経後ホルモン補充療法(HRT)を行っている患者において、経口避妊薬の過去の前使用者は非使用者よりも乳癌発症のリスクが高まることが示唆された。
357	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、市中肺炎発症リスクが上昇し、中でも使用開始直後はリスク上昇率が高いことが示唆された。
358	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。

	一般的名称	報告の概要
359	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	母胎に硫酸マグネシウムを投与した仔ラットで、新生仔の動脈管収縮は無投薬新生仔に比べ遅延し、仔ラットの動脈管開存症発生に関連することが示唆された。
360	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	マグネシウム投与母体の超低出生体重児において、動脈管開存症(PDA)に対するインドメタシン投与率が高まることが示唆された。
361	レセルピン・塩酸ヒドララジン配合剤	4例の雌カニクイザルにヒドロクロチアジドを強制経口投与したところ、全例で血清カリウム低下が起こり、血清カリウム低値を保った2例については心室の多巣性心筋壊死や心電図変化が見られた。
362	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、市中肺炎発症リスクが上昇し、中でも使用開始直後はリスク上昇率が高いことが示唆された。
363	メトトレキサート	移植前にウサギ抗胸腺細胞グロブリン処置を受けた骨髄移植を受けた悪性および非悪性疾患の小児70例の記録を精査したところ、6例が間質性肺炎を、5例がEBウイルス関連リンパ増殖性疾患を起こし、13例が死亡した。
364	エストロゲン〔結合型〕	閉経後、多年を経過した女性に対するホルモン補充療法は、心血管系障害や静脈塞栓症の発症リスクを高めることが示唆された。
365	メトトレキサート	メトトレキサートをベースとした化学療法の多施設Phase II試験において、32例のうち、1例が発熱性好中球減少症で死亡した。
366	ホスフェストロール	マウスにおいて、胎仔期のホスフェストロール曝露により先天性尿道下裂の発症が起こる可能性が示唆された。
367	高カロリー輸液用総合ビタミン剤(6)	登録時がんと診断されていなかった男性295344例を対象としたプロスペクティブ研究において、週7回以上のマルチビタミンの過剰摂取者は非摂取者と比較して、進行性および致死性前立腺癌のリスクが増加した。
368	酢酸リュープロレリン	65歳以上の前立腺癌患者において、放射線療法(RA)にアンドロゲン抑制療法(AS T)を6ヶ月併用した場合、RT単独の患者と比べ致死的心筋梗塞の発症時期が早くなることが示唆された。
369	ブスルファン	前処置にフルダラビン、ブスルファン、シクロホスファミドを使用したHLAタイプ一致幹細胞移植を行なった難治性白血病患者35例を対象として長期間の生存について評価したところ、真菌感染症と中心静脈閉塞症でそれぞれ1例が死亡した。
370	ブスルファン	前処置にクラドリビン、ブスルファン、放射線照射を行なったHLAタイプ一致幹細胞移植を行なった血液疾患患者27例を対象としたプロスペクティブ多施設臨床試験において、グレード3以上の不整脈、低酸素血症、高トランスアミナーゼ血症が認められた。
371	アプロチニン	冠動脈バイパス術施行者78199例を対象として、病院データベースを利用したレトロスペクティブ調査を行ったところ、アミノカプロン酸投与群と比較してアプロチニン投与群で死亡、腎不全のリスクが増加することが示唆された。
372	人血清アルブミン	外傷性脳損傷患者蘇生の大規模二重盲検試験(SAFE Study)の追跡研究において、460例の患者を追跡したところ、アルブミンによる蘇生群の方が生理食塩液による蘇生群よりも死亡率が高かった。
373	メトトレキサート	高用量メトトレキサートを含む多剤化学療法を受けた小児T細胞性急性リンパ芽球性白血病患者53例を対象とした後ろ向き研究において、13例が死亡した。
374	ソマトロピン(遺伝子組換え)	週3回以上運動を行っている健康な成人男女それぞれ10名において、成長ホルモンを投与したところ、20例中8例で下痢が生じた。

	一般的名称	報告の概要
375	フェノバルビタールナトリウム	妊娠中にカルバマゼピン、フェノバルビタールを使用した母親から生まれた4人の児で、多嚢胞性異形成腎が見られた。
376	塩酸ミトキサントロン	再発あるいは難治性の非ホジキンリンパ腫患者あるいはホジキン病患者59例に対するミトキサントロンを含む高用量化学療法後に自家移植を施行したところ、早期心毒性が2例で発現し、うち1例が死亡した。
377	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンの投与を受けた多発性骨髄腫患者98例の診療記録を調査したところ、4例が急性前骨髄性白血病を発生した。
378	塩酸ミトキサントロン	B細胞性低分化型非ホジキンリンパ腫患者48例に対し、フルダラビン/ミトキサントロン療法を行なったところ、6例が死亡した。
379	メトレキサート	非血縁造血幹細胞移植を受けた白血病患者24例のうち、8例が死亡した。
380	メトレキサート	多剤併用術前化学療法を受けた陰茎癌患者20例を対象としたデータベース調査において、治療開始後2週間以内に1例が死亡し、その他肺炎、血栓塞栓症、細菌性肺炎により3例が死亡した。
381	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の10年以上の使用は、下肢動脈閉塞性疾患発症リスクを高めることが示唆された。
382	テガフル・ウラシル	進行・再発大腸癌患者35例を対象としたイリノテカン/テガフル・ウラシルのPhase II試験において、好中球減少がGrade3が7例、Grade4が2例、Grade3の貧血、白血球減少が各1例発現した。
383	マレイン酸フルボキサミン	高齢女性(平均年齢78.5歳)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下し、骨損失率が高まることが示唆された。
384	マレイン酸フルボキサミン	高齢男性(65歳以上)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下することが示唆された。
385	黄熱ワクチン	2001年からVaccine Adverse Event Reporting System (VAERS)に黄熱ワクチン摂取後にギランバレー症候群を発生した例が5例報告された。
386	メトレキサート	白血球数が $100 \times 10^9/L$ の急性リンパ芽球性白血病患者56例を対象としてメトレキサートを含む化学療法の効果を検討した試験において、5例が早期に死亡し、同種造血幹細胞移植を受けた患者のうち、3例も移植関連合併症、再発、移植非関連要因により死亡した。
387	メルカプトプリン	急性前骨髄性白血病患者302例を対象とした前向き多施設試験において、維持化学療法施行群で経過観察群よりも有意に全死亡率が低下した。
388	リスペリドン	リスペリドンを含む抗精神病薬を服用した高齢者患者において、大腿骨折による入院のリスクが高まることが示唆された。
389	塩酸ラニチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
390	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	中大脳動脈閉塞モデルラットにrt-PAを静脈内投与したところ、用量依存的に皮質と基底膜が傷害された。



	一般的名称	報告の概要
391	マレイン酸フルボキサミン	高齢男性(65歳以上)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下することが示唆された。
392	マレイン酸フルボキサミン	高齢女性(平均年齢78.5歳)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下し、骨損失率が高まることが示唆された。
393	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	CD33陽性急性骨髄性白血病患者46例を対象とした併用療法後の低用量ゲムツズマブオゾガマイシン投与の前向き多施設共同試験において、肺出血により1例死亡した。
394	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	集中治療室への入院後48~96時間が経過した内科患者、外科患者、外傷患者1460例を対象とした前向き無作為化プラセボ対照試験において、プラセボ投与群と比較して、エポエチンアルファ投与群では血栓イベントの発生率が有意に増加した。
395	ベンズプロマロン	初診時までに痛風発作が2回以上あった痛風患者350例を対象としたレトロスペクティブ調査において、特に尿酸降下剤投与開始後1~2か月の間に痛風発作を起こすことが多かった。
396	アムホテリシンB	幼若ラットを用いた4週間反復静脈内投与毒性試験のための2週間投与予備試験において、大脳、小脳に出血性変化が認められた。
397	ヘパリンナトリウム	初期浸潤性治療を受けている中・高リスクの球性冠動脈症候群患者13819例を対象としたbivalirudin(BIV)、BIV+GP2b/3b阻害剤、ヘパリン+GP2b/3b阻害剤を無作為化したACUITY試験において、大出血が死亡率の予測因子となることが示唆された。
398	ケトコナゾール	ホスアンブレナビルとリナビルにケトコナゾール経口剤を併用すると、ケトコナゾールのAUCが高まることが示唆された。
399	レボホリナートカルシウム	日本人の切除不能転移性結腸直腸癌患者32例を対象としてFOLFOX4の実行可能性を検討したプロスペクティブ研究において、1例が間質性肺炎を発現し、呼吸不全により死亡した。
400	ジクロフェナクナトリウム	癌への結腸切除の際、疼痛処理として使用されるモルヒネの投与量減量目的でジクロフェナクを使用すると、吻合部離開が起こった。
401	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
402	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子欠損中大脳動脈閉塞モデルマウスを用いた検討において、t-PA投与による頭蓋内出血増大はMMP-9よりPlgとMMP-3が重要な役割を果たしていることが示唆された。
403	アセトアミノフェン	非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)アレルギーを早期発現(6歳未満)した群では、後期発現(6歳以降)群と比較してアセトアミノフェンに交差反応を示す割合が高いことが示唆された。
404	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子欠損中大脳動脈閉塞モデルマウスを用いた検討において、t-PA投与による頭蓋内出血増大はマトリックスメタロプロテアーゼ(MMP)-9よりプラスミノゲンとMMP-3が重要な役割を果たしていることが示唆された。
405	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	中大脳動脈閉塞モデルラットにrt-PAを静脈内投与したところ、用量依存的に皮質と基底膜が傷害された。
406	エストラジオール	エストロゲン+プロゲステロンの周期的併用療法を長期間行くと、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
407	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
408	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	一医療機関において、入院患者121人にインスリンを使用したところ、インスリンによる肝障害と思われた患者が13人いた。
409	ホリナートカルシウム	治癒切除手術後21日から56日のステージⅢ結腸癌患者1264例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン(LV)レジメン(629例)とフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン(CPT-11)レジメン(635例)を比較するランダム化試験(CALGE89793試験)において、試験登録後6ヵ月以内の治療中の死亡率がLVレジメンでは1.0%、CPT-11レジメンでは2.8%であり、主な死因は好中球減少性敗血症と血管塞栓症であった。
410	ブデソニド	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者に吸入副腎皮質ステロイド(ICS)を投与したところ、肺炎による入院率及びその後30日以内の死亡リスクが高まることが示唆された。
411	塩酸パロキセチン水和物	妊娠第1期の塩酸パロキセチン暴露により、児の心奇形のリスクが高まることが示唆された。
412	メルカプトプリン	1996年から2004年の間にクローン病女性患者から出生した900例の子供についての全国コホート研究において、アザチオプリン/メルカプトプリン投与群において、早産と先天異常の発現リスクが高かった。
413	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	一医療機関において、再発寛解型多発性硬化症患者30例に対してインターフェロンベータ-1aを投与したところ、3例で投与直後の再発が認められ、うち2例はインターフェロン ベータ1bから1aへの切替例であった。
414	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
415	ホリナートカルシウム	治癒切除手術後21日から56日のステージⅢ結腸癌患者1264例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン(LV)レジメン(629例)とフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン(CPT-11)レジメン(635例)を比較するランダム化試験(CALGE89793試験)において、試験登録後6ヵ月以内の治療中の死亡率がLVレジメンでは1.0%、CPT-11レジメンでは2.8%であり、主な死因は好中球減少性敗血症と血管塞栓症であった。
416	リファンピシン	16例のボランティアを対象としてリファンピシンとモキシフロキサシン併用時の薬物動態を検討するオープンラベル薬物動態試験において、リファンピシンの投与により、モキシフロキサシンのAUCが27%減少した。
417	リファンピシン	16例のボランティアを対象としてリファンピシンとモキシフロキサシン併用時の薬物動態を検討するオープンラベル薬物動態試験において、リファンピシンの投与により、モキシフロキサシンのAUCが27%減少した。
418	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	ケニアの産婦において、経口避妊薬の使用によりHIV-1の感染が増加することが示唆された。
419	ガドジアミド水和物	腎機能不全患者におけるガドジアミド投与は、鉄動員が増加し、トランスフェリンが過飽和となることが示唆された。
420	ブスルファン	骨髄破壊的あるいは骨髄非破壊的移植前治療を受け、移植が行なわれた造血器疾患患者123例を対象としたレトロスペクティブ研究において、GVHD、ブスルファンの使用等が移植後の血栓性微小血管症発症のリスク因子であることが示唆された。
421	塩酸ミキサントロン	ミキサントロン療法を施行された再発寛解型多発性硬化症、進行再発型多発性硬化症、2次性進行性多発性硬化症患者509例を対象とした多施設オープンラベルRENEW試験において、7例が死亡し、1例が白血病を発生した。

	一般的名称	報告の概要
422	塩酸ミトキサントロン	ホルモン不応性前立腺癌患者63例を対象としたドセタキセル/ミトキサントロン併用療法のプロスペクティブ多施設Phase II試験において、1例がリステリア性髄膜炎、2例が心筋梗塞により死亡した。
423	エンチフルゾン	リウマチ性関節炎の患者に糖質コルチコイド製剤と疾患修飾性抗リウマチ剤(DMARDs)を併用すると、感染症にかかるリスクが高くなることが示唆された。
424	プレドニゾン	顔面に血管腫を患う幼児20人について経口ステロイド療法群と静中ステロイドパルス療法群に分けて治療を行ったところ、両群から1名ずつ呼吸窮迫が生じ、経口群の患者1名は併発性でない水痘を発症した。
425	センナ・センナ実	芍薬甘草湯とセンナ製剤を併用した30人中6人で低カリウム血症が発症した。
426	ランソプラゾール	開心手術後にランソプラゾールとワルファリンを併用した患者において、INR上昇が見られ、術後の出血性合併症のリスクとなることが示唆された。
427	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブを投与された回腸嚢や吻合を伴う結腸切除術を実施した潰瘍性大腸炎患者35例と手術日等をマッチさせた対照群35例を対象としたケースコントロール研究において、インフリキシマブ群で6例に副作用が発現し、1例は嚢にリンパ腫が認められた。
428	テモゾロミド	FDAに1999年8月11日から2006年11月3日に報告されたテモゾロミド投与患者における再生不良性貧血の報告18件を分析したところ、テモゾロミドの関与の可能性を否定することができなかった。
429	塩酸ミトキサントロン	急性リンパ性白血病およびリンパ芽球性リンパ腫患者143例を対象とした化学療法と幹細胞移植のPhase II試験において、寛解導入療法時に14例、強化療法中に3例が感染、頭蓋内イベント、出血により死亡した。
430	ニコチン含有一般用医薬品	ヌードマウスにヒト結腸癌細胞を移植後ニコチンを経口投与したところ、腫瘍の大きさ及び単位面積あたりの血管数が、ニコチンの用量に応じて増大、増加した。
431	塩酸バンコマイシン	心内膜炎患者のVancomycin-intermediate Staphylococcus aureus(VISA)菌株とdaptomycinに関する研究において、バンコマイシンの低感受性株(MIC8 µg/mL)が報告された。
432	メシル酸ペルゴリド	ラットにおいて、in vivoでペルゴリドを長期投与したところ、心臓弁膜症が見られた。
433	メタヨードベンジルグアニジン(131I)	進行性、難治性あるいは再発性の神経芽腫患者164例を対象とした第2相試験において、2次性悪性腫瘍が5例に発生した。また、カリニ肺炎、毛細血管漏出症候群、MDSあるいはAMLにより6例が死亡した。
434	カルボプラチン	カルボプラチンを複数回投与された女性126例を対象としたレトロスペクティブ研究において、プラチナフリーインターバルが長いほど過敏症の発現率が上昇することが示唆された。
435	ジクロフェナクナトリウム	ロジスティック回帰分析により、スティープンジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症の発症を高める医薬品としてカルバマゼピンとアセトアミノフェン、ジクロフェナクが示唆された。
436	ホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者119例を対象としたPET診断で術前科学療法の方針性を決めるPhase II試験において、卒中発作、突発性心疾患で2例が死亡した。
437	ホリナートカルシウム	転移または再発食道扁平上皮癌患者41例を対象とした週2回投与のパクリタキセル/シスプラチンとフルオロウラシル/ロイコボリンを併用するレジメンを検討するPhase II試験において、侵襲性真菌感染症により1例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
438	人血清アルブミン	外傷性脳損傷患者蘇生の大規模二重盲検試験(SAFE Study)の追跡研究において、460例の患者を追跡したところ、アルブミンによる蘇生群の方が生理食塩液による蘇生群よりも死亡率が高かった。
439	ホスフェストロール	マウスにおいて、新生児期のホスフェストロール曝露により、陰茎骨の奇形や陰茎の長さ、直径や重量の低下などを引き起こすことが示唆された。
440	リン酸オセルタミビル	ラット由来の海馬神経細胞を用いたin vitro試験において、オセルタミビルが脳細胞を興奮させる作用があることが示唆された。
441	リバビリン	2007年7月24日までにリバビリンを投与に伴う妊娠症例2229例のうち、先天異常:46例、小児疾患:11例、人工中絶:364例、胎児死亡:158例が認められた。
442	ホリナートカルシウム	転移または再発食道扁平上皮癌患者41例を対象とした週2回投与のパクリタキセル/シスプラチンとフルオロウラシル/ロイコボリンを併用するレジメンを検討するPhase II試験において、侵襲性真菌感染症により1例が死亡した。
443	メトレキサート	生殖細胞癌患者62例を対象としたGA-MEC療法(G-CSF,アクチノマイシンド,メトレキサート,エトポシド,シスプラチン)のPhase II試験のプロスペクティブ解析により、敗血症、絨毛腫に基づく腹腔内出血により5例が死亡した。
444	レボホリナートカルシウム	Stage III大腸癌患者1101例を対象としたフルオロウラシル+レボホリナートカルシウム群とテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム+ホリナートカルシウム群の無作為化比較試験において、31例に二次癌が発生した。
445	エストラジオール	エストロゲン+プロゲステロンの周期的併用療法を長期間行くと、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
446	テガフル・ウラシル	Stage III大腸癌患者1101例を対象としたフルオロウラシル+レボホリナートカルシウム群とテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム+ホリナートカルシウム群の無作為化比較試験において、31例に二次癌が発生した。
447	ゾレドロン酸水和物	オーストラリア副作用諮問委員会に経口ビスホスホネート製剤のうち、腎機能障害あるいは腎不全の報告が、ゾレドロン酸で多く報告された。
448	ワルファリンカリウム	心房細動入院患者18867例を対象としたレトロスペクティブ研究において、有色人種、特にアジア人は白人に比べてワルファリン投与により、頭蓋内出血のリスクが高まることが示唆された。
449	ニコチン含有一般用医薬品	ニコチンを高用量に摂取したマウスの小核試験では、多染性の赤血球の増加が見られ、遺伝毒性が示唆された。
450	メシル酸サキナビル	HIV感染患者12例を対象とした研究において、リナビルとサキナビルの併用投与では短期間の併用療法よりも長期間の併用投与のほうが、両剤の血中濃度が低下した。
451	ホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者119例を対象としたPET診断で術前科学療法の方向性を決めるPhase II試験において、卒中発作、突発性心疾患で2例が死亡した。
452	塩酸ヒドララジン	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。
453	非ピリン系感冒剤(4)	感冒様症状の68歳女性が非ピリン系感冒剤(4)顆粒とレボフロキサシンを使用したところ、薬物性肺炎(間質性肺炎)が発症した。

	一般的名称	報告の概要
454	硫酸イソプロテノール・臭化メチルアトロピン配合剤	1500g以下の低出生体重児において、デキサメタゾンの42日間漸減療法後を行い、4-11歳時の脳性麻痺の有無を調べたところ、プラセボ群と比較してデキサメタゾン投与群で脳性麻痺の罹患率が高かった。
455	硫酸マグネシウム	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。
456	硫酸マグネシウム	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。
457	ホリナートカルシウム	ステージT3N1の食道癌患者33例を対象とした術前化学療法+術後化学療法+手術のPhase II 試験において、手術前に1例が血管イベントにより死亡した。
458	塩酸セベラマー	健常ボランティア7名において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、チロキシンのAUCが低下することが示唆された。
459	塩酸セベラマー	血液透析患者において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、甲状腺補充療法の必要量が高くなり、TSHレベルが高くなるなど、レボチロキシンの生物学的利用能が低下することが示唆された。
460	ピロキシカム	NSAIDsの胃腸障害リスクをメタアナリシスにより検討した結果、ピロキシカムではリスクが高いことが示唆された。
461	ピロキシカム	NSAIDsの上部消化管穿孔/出血(UGIB)リスクを18報の論文によるメタアナリシスにより検討した結果、NSAIDs曝露によりUGIB発症リスクが高まることが示唆された。
462	ピロキシカム	NSAIDsの胃腸障害リスクをメタアナリシスにより検討した結果、ピロキシカムではリスクが高いことが示唆された。
463	プレドニゾン	出生前コルチコステロイド反復投与が行われた小児において、脳性麻痺が6例で見られた。
464	塩酸セベラマー	健常ボランティア7名において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、チロキシンのAUCが低下することが示唆された。
465	塩酸セベラマー	血液透析患者において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、甲状腺補充療法の必要量が高くなり、TSHレベルが高くなるなど、レボチロキシンの生物学的利用能が低下することが示唆された。
466	カベルゴリン	パーキンソン病治療のため長期間にわたり2mg/日以上のカベルゴリン投与を受けた高齢者において、心臓弁膜関連副作用が起こることが示唆された。
467	カベルゴリン	パーキンソン病治療のため長期間にわたり2mg/日以上のカベルゴリン投与を受けた高齢者において、胸膜/肺繊維症関連副作用が起こることが示唆された。
468	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の長期使用により、子宮頸癌および中枢神経または下垂体癌の発生率が上昇することが示唆された。
469	ペグインターフェロン アルファ-2a (遺伝子組換え)	Recanati-Miller Transplantation Institute databaseを用いた病歴の再検討により、肝移植後のペグインターフェロン アルファ-2a及びビリパビリンの投与により、慢性胆管消失性拒絶反応の発現率が高くなることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
470	リバビリン	Recanati-Miller Transplantation Institute databaseを用いた病歴の再検討により、肝移植後のペグインターフェロン アルファー2a及びリバビリンの投与により、慢性胆管消失性拒絶反応の発現率が高くなることが示唆された。
471	ピロキシカム	NSAIDsの重篤な皮膚障害発現リスクを検討した結果、ピロキシカムではリスクが高いことが示唆された。
472	塩酸ミキサントロン	再発・難治性急性骨髄性白血病患者62例を対象とし、Flavopiridol+シタラビン+ミキサントロンのPhase II試験において、多臓器不全により2例が、真菌感染により1例が死亡した。
473	ホリナートカルシウム	ステージT3N1の食道癌患者33例を対象とした術前化学療法+術後化学療法+手術のPhase II試験において、手術前に1例が血管イベントにより死亡した。
474	ジクロフェナクナトリウム	薬剤性の急性肝内胆汁うっ血の患者26例の生化学データを調べたところ、原因薬剤としてジクロフェナクが挙げられた。
475	ケトプロフェン	非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)と血液凝固防止剤又は抗血小板の併用により、NSAIDs単独投与時より消化管出血リスクが高まることが示唆された。
476	プレドニゾン	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者に吸入副腎皮質ステロイド(ICS)を投与したところ、肺炎による入院率及びその後30日以内の死亡リスクが高まることが示唆された。
477	ロスバスタチンカルシウム	慢性心不全患者患者に対するスタチン追加療法を検討したCORONA試験の結果、心不全に対する至適治療がなされている患者にロスバスタチンを追加投与した際の死因はアテローム性動脈硬化性イベントでなく、心臓状態の悪化に伴うことが示唆された。
478	タダラフィル	18人の男性不妊症患者にタダラフィルを投与したところ、総精子運動率が減少することが示唆された。
479	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータで治療を受けている多発性硬化症患者97例を対象として、中和抗体価を測定したところ、中和抗体価の増加に伴い、インターフェロン ベータの生物活性が段階的に喪失することが示唆された。
480	プラバスタチンナトリウム	3年を超える期間で収集した58名の間質性肺炎の患者中、プラバスタチン・シンバスタチンの服用例が7例あった。
481	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	子宮頸部腺癌と診断された150名の女性においてケースコントロールスタディを行ったところ、経口避妊薬を12年以上使用している患者で子宮頸癌発症リスクが高まることが示唆された。
482	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	20-44歳も浸潤性子宮頸癌と診断された白人女性においてケースコントロールスタディを行ったところ、経口避妊薬を使用すると扁平上皮癌、腺癌発症示唆された。
483	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬(OC)と癌の関連についてコホート研究を行ったところ、OCを97ヶ月以上使用している患者において子宮頸癌発症リスクが高まることが示唆された。
484	リツキシマブ(遺伝子組換え)	一医療機関において、成人悪性リンパ腫150例を対象としたレトロスペクティブ研究において、リツキシマブ非併用群と比較して、リツキシマブ併用群で有意に遅発性好中球減少症の発現頻度が高かった。
485	リツキシマブ(遺伝子組換え)	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫患者43例を対象としたレトロスペクティブ研究において、リツキシマブ非併用群と比較して、リツキシマブ併用群で有意にlate-onset neutropeniaが多く見られた。

	一般的名称	報告の概要
486	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン中毒による死亡リスクは、若年成人群(60歳未満)と比較して高齢成人群(60歳以上)で高まることが示唆された。
487	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン誘発性の劇症肝炎の患者において、長期抗痙攣薬投与によって死亡率が増加することが示唆された。
488	メトトレキサート	一医療機関における中枢神経原発性悪性リンパ腫患者19例を対象として放射線療法、大量メトトレキサート療法、放射線+メトトレキサート療法を検討した研究において、放射線+メトトレキサート療法において、白質脳症で1例が死亡した。
489	メトトレキサート	一医療機関における中枢神経原発びまん性大細胞Bリンパ腫患者8例を対象としてMEDOCHR療法高用量メトトレキサート+R-CHOP療法を検討した研究において後群で骨髄よく世紀に敗血症、DICにより1例が死亡した。
490	リスペリドン	リスペリドン使用患者において、HTR2C受容体遺伝子多型の変種対立形質を持つ患者は代謝症候群のリスクが高まることが示唆された。
491	ジクロフェナクナトリウム	免疫アレルギー科に入院中の患者中5例はジクロフェナクに起因しており、うち4例はアナフィラキシー反応を呈し、1例は経口投与2時間後に巨大な蕁麻疹を呈した。
492	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の長期使用により、子宮頸癌および中枢神経または下垂体癌の発生率が上昇することが示唆された。
493	標準化スギ花粉エキス	耳鼻咽喉科医745名に対する皮内注射による免疫療法(SCIT)に関するアンケートにおいて、SCITにおける副作用として、局所の異常(注射部位が晴れた、上肢の浮腫、局所の痒みなど)、ショック、呼吸困難(喘息発作、喉頭浮腫など)、全身発疹、症状悪化、悪心があげられた。
494	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールとの併用のより、ジアゼパムのAUC、血中半減期が増加した。
495	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
496	ポリコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールとの併用のより、ジアゼパムのAUC、血中半減期が増加した。
497	メシル酸サキナビル	健常人24例を対象とした無作為化クロスオーバー併用試験においてサキナビル投与により、エプレレノンの最血中濃度、AUC、血中半減期が増加した。
498	ワルファリンカリウム	心房細動入院患者18867例を対象としたレトロスペクティブ研究において、有色人種、特にアジア人は白人に比べてワルファリン投与により、頭蓋内出血のリスクが高まることが示唆された。
499	テガフル・ウラシル	進行・再発大腸癌患者14例を対象としたテガフル・ウラシル/ロイコボリン/イリノテカン併用療法のPhase II試験において、1例が好中球減少のため、入院した。
500	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬使用者において、使用期間が増えるに伴い子宮頸部、中枢神経系、下垂体で発癌リスクが高まることが示唆された。
501	ニトログリセリン	急性非代償性心不全入院患者において、静中利尿剤単独投与の場合と比較して、利尿剤とニトログリセリンの併用静中療法で腎機能悪化の割合が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
502	ニトログリセリン	分娩時に胎児の蘇生のためニトログリセリンを投与された妊婦において、平均心拍数の増加や平均動脈圧の低下がおこることが示唆された。
503	ヘパリンナトリウム	市販の5種類のヘパリンロック製剤の薬液中に0.1ppm～0.01ppm以下の過酸化水素濃度が検出された。
504	エストラジオール	エストロゲン・プロゲステロン併用ホルモン療法により、浸潤性小葉癌発症リスクが高まることが示唆された。
505	アセトアミノフェン	出生当年にアセトアミノフェンを服用した小児において、喘鳴、鼻炎、湿疹などのアレルギー性疾患の発生率が高まることが示唆された。
506	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
507	ホリナートカルシウム	転移性胃癌患者169例を対象としたFOLFIRI+ドセタキセル/シスプラチン療法とマイトマイシンC単剤療法を比較するPhase III試験において、前群で消化管出血と自殺により2例が死亡した。
508	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者474例を対象としたカペシタビン/オキサリプラチン併用療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン併用療法を比較したランダム化Phase III試験において前群で敗血症、肺静脈血栓症、動脈血管塞栓症、十二指腸出血、象徴閉塞により、後群では悪性不整脈、急性腎不全、敗血症、激しい下痢を伴う脱水により死亡例がみられた。
509	ジソピラミド	薬物性不整脈、中毒に関連する症例報告データベースを利用したケースコントロール研究において、ジソピラミドの使用により薬物性不整脈発現リスクが高まることが示唆された。
510	ワルファリンカリウム	ワルファリンに関連した頭蓋内・頭蓋外出血を認めた非弁性心房細動患者13559例を対象としたレトロスペクティブ研究において、頭蓋外出血よりも頭蓋内出血の方が重篤な機能障害や死亡にいたる例が多かった。
511	イブプロフェン含有一般用医薬品	NSAIDsで関節炎の治療を受けた18歳以上の患者のコホート内症例対照研究により、イブプロフェンの使用により脳卒中の発現リスクが高まることが示唆された。
512	シンバスタチン	スタチン製剤服用により、重症筋無力症をおこした11例。
513	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	インスリン導入目的で入院した119人において、インスリン導入後の肝障害(AST, ALT上昇)率が高いことが示唆された。
514	リン酸オセルタミビル	2005/2006シーズンのAH1型51株中2株にH274Yの変異が認められ、NA活性による薬剤感受性試験でもオセルタミビルに対し感受性の低下が認められた。
515	リン酸オセルタミビル	神奈川県下の小児科診療所および病院434施設を対象に行なったアンケート調査において130例の異常行動の報告がなされ、このうち「飛び出し・飛び降り」症例は19例であり、うちオセルタミビル使用例は47.5%であった。
516	リン酸オセルタミビル	2005/2006シーズンのAH1型51株中2株にH274Yの変異が認められ、NA活性による薬剤感受性試験でもオセルタミビル・ザナミビルに対し感受性の低下が認められた。



	一般的名称	報告の概要
517	レボホリナートカルシウム	大腸癌患者67例を対象としたFOLFOX6/ペバシズマブ/cetuximabのPhase II 試験において、好中球減少症および下痢と肺線維症により2例が死亡した。
518	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	n-2-butyrylcyanoacrylateとエチオドールの混液を静脈モデルに投与したところ、血液凝固や血球円柱がみられ、ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル単独でも胎盤の末梢血管に血栓形成が見られた。
519	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	シスプラチンとヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルを投与された原発性肝臓癌患者において、腹痛、悪心・嘔吐、胃部不快感、発熱が高頻度に発現し、シスプラチン単独投与の場合と比べ、早期に重篤な血小板減少が誘起されることが示唆された。
520	ミコナゾール	副作用症例報告データベース(CARPIS)を用いたケースコントロール研究において、日本人の不整脈の起因薬剤として、ジソピラミド、塩酸リドリン、ミコナゾール、ハロタン、塩酸チオリダジン、チオベンタールナトリウムで有意差が認められた。
521	ベタメタゾン	芍薬甘草湯とセンナ製剤を併用した30人中6人で低カリウム血症が発症した。
522	デソゲステル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
523	セレコキシブ	セレコキシブを高用量使用すると、心血管系イベントの発生リスクが高まり、ベースラインリスクが高い患者で本剤に関連する心血管系イベントのリスクが高まることが示唆された。
524	ジクロフェナクナトリウム	CYP2C9で代謝されるNSAIDs・COX IIの急性使用者により胃十二指腸出血病変のある26名において、CYP2C9*1/*3やCYP2C9*1/*2型の割合が高かった。
525	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
526	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	BRCA1/2変異保有者で経口避妊薬を使用した場合、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
527	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータによる中和抗体が、皮下投与で14~62%、筋肉内投与で2~18%の発生頻度で報告されている。
528	ホスフェストロール	新生仔期にホスフェストロールを高用量投与された雌ラットにおいて、乳癌が頻発する可能性が示唆された。
529	リファンピシン	結核を有するHIV感染患者3例を対象としたアタザナビルとリトナビルを含む抗レトロウイルス治療とリファンピシンの併用時の薬物動態をプロスペクティブに検討したところ、アタザナビルの血中濃度が低下することが示唆された。
530	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン(CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhase III試験において、両群で各3例死亡した。
531	リツキシマブ(遺伝子組換え)	indolentまたはハイリスクaggressive B細胞性非ホジキンリンパ腫患者46例を対象として移植前のリツキシマブ投与群、非投与群を比較したところ、リツキシマブ投与群で移植後のサイトメガロウイルス感染リスクが高くなることが示唆された。
532	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬使用者において、使用期間が増えるに伴い子宮頸部、中枢神経系、下垂体で発癌リスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
533	酢酸メドロキシprogesteron	エストラジオールとprogesteron処理をした接着細胞上に単球細胞を一定の流速で流したところ、エストラジオール単独処理の場合と比較して接着亢進が見られた。
534	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象とした無作為化試験において、3例が死亡した。
535	アセトアミノフェン	ワルファリンを投与されている患者において、アセトアミノフェンの併用により出血リスクの上昇が示唆された。
536	シメチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
537	ピロキシカム	メタアナリシスにより、ピロキシカムは他のNSAIDsと比較して胃腸系リスクが高まることが示唆された。
538	シクロスポリン	ヒト結腸がん由来細胞株Caco-2細胞を用いてシクロスポリンとプラバスタチンの相互作用を検討したところ、プラバスタチンがMRP2を介してシクロスポリンの排出を抑制したことが示唆された。
539	メロニダゾール	基礎肝疾患を持つ4例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝機能障害のある患者では低用量で脳症やニューロパシーを誘発することが示唆された。
540	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
541	レボホリナートカルシウム	未治療の転移性結腸直腸癌患者38例を対象とした無作為化試験において、modified FOLFOX7/ペバシズマブ群で1例が穿孔で死亡し、modified XELOX/ペバシズマブ/erlotinib群で下痢で1例が死亡した。
542	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
543	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/フルオロウラシル/アイソボリンの第II相試験において、過敏症反応、敗血症性下痢でそれぞれ1例が死亡した。
544	アミノ安息香酸エチル	経食道心エコー検査(TEE)などの内視鏡手術時におけるアミノ安息香酸エチルを使用した患者において、メヘモグロビン血症の発現が高まることが示唆された。
545	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊婦4名への硫酸マグネシウム投与により、出生した児で高マグネシウム血症、低カルシウム血症が起きた。
546	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
547	塩酸ラニチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
548	テガフル・ウラシル	70歳以上の結腸直腸癌患者175例を対象として、術後補助化学療法群95例と緩和的ファーストライン化学療法群80例への質問票による調査において、後群で1例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
549	エストラジオール	エストロゲン・プロゲステリン併用ホルモン療法により、浸潤性小葉癌発症リスクが高まることが示唆された。
550	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
551	メルカプトプリン	炎症性大腸炎患者1217例を対象としたレトロスペクティブコホート研究において、大腸癌10例、非ホジキンリンパ腫6例、基底細胞癌6例、乳癌6例が認められ、アザチオプリンまたはメルカプトプリンの投与期間が影響することが示唆された。
552	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者169例を対象としたFOLFIRI+ドセタキセル/シスプラチン療法とマイトマイシンC単剤療法を比較するPhase III試験において、前群で消化管出血と自殺により2例が死亡した。
553	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者474例を対象としたカペシタビン/オキサリプラチン併用療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン併用療法を比較したランダム化Phase III試験において前群で敗血症、肺静脈血栓症、動脈血管塞栓症、十二指腸出血、象徴閉塞により、後群では悪性不整脈、急性腎不全、敗血症、激しい下痢を伴う脱水により死亡例がみられた。
554	ホリナートカルシウム	フルオロウラシルまたはカペシタビンをベースとした化学療法を受けたがん患者644例を対象としたプロスペクティブ研究において、伝導異常がみられた1例が死亡した。
555	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
556	ヘパリンナトリウム	心臓手術後に術後血小板減少症を生じた患者487例を対象としたレトロスペクティブケースコントロール研究において、HIT抗体陽性患者で急性四肢虚血、腎不全の発生率、30日間死亡率が高かった。
557	塩酸ゲムシタビン	75歳以上の未治療の非小細胞肺癌患者39例を対象として、ゲムシタビン/ビノレルビン併用療法とゲムシタビン/ドセタキセル併用療法を比較したプロスペクティブ無作為化phase II試験において、血液毒性、肺毒性、下痢、浮腫がみられた。
558	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
559	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
560	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	2年以上前からインスリン注射を行っている糖尿病患者において、インスリンの注射期間と注射手順により、リポハイパトロフィーの発現率が高まることが示唆された。
561	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
562	ファモチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
563	プレドニゾン	肝移植後にタクロリムスを単独投与されている患者と比べ、タクロリムスとプレドニゾンを併用している患者では、ヒトサイトメガロウイルス感染率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
564	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
565	リン酸オセルタミビル	ブタ腎臓上皮由来細胞およびヒトMDR1導入由来細胞、ヒト結腸癌由来細胞を用いた研究において、タミフルがMDR1の機能を阻害して脳に何らかの影響を与えている可能性が示唆された。
566	レボホリナートカルシウム	70歳以上の結腸直腸癌患者175例を対象として、術後補助化学療法群95例と緩和的ファーストライン化学療法群80例への質問票による調査において、後群で1例が死亡した。
567	ジゴキシン	うつ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
568	リン酸ベタメタゾンナトリウム	出生前コルチコステロイド反復投与が行われた小児において、脳性麻痺が6例で見られた。
569	硫酸マグネシウム	硫酸マグネシウムを投与された母親から出生した超早産児において、動脈管閉鎖日齢が遅れる傾向が見られた。
570	ホリナートカルシウム	フルオロウラシルまたはカペシタピンをベースとした化学療法を受けたがん患者644例を対象としたプロスペクティブ研究において、伝導異常がみられた1例が死亡した。
571	非ピリン系感冒剤(2)	妊娠後期のアセトアミノフェンの摂取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
572	ジアゼパム	海外健常人12名において、ポリコナゾール又はフルコナゾール投与中のジアゼパムの反復投与により、ジアゼパムのAUCが増加することが示唆された。
573	リスペリドン	認知症の診断後に抗精神病薬を投与された患者は、抗精神病薬でない薬剤を投与された患者に比べ、死亡率が高まることが示唆された。
574	ジクロフェナクナトリウム	急性腰痛患者にジクロフェナクを投与したところ、胃腸障害、浮動性めまい、動悸などがみられ、1名で過敏症反応があらわれた。
575	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile大腸炎の再発リスクが増加することが示唆された。
576	メトレキサート	軟髄膜播種を伴う悪性脳腫瘍を有する10歳未満の小児40例を対象とした高用量メトレキサートを用いた強化療法の臨床試験において、2例が死亡した。
577	メトレキサート	第IV期ヒト免疫不全ウイルス関連パーキットリンパ腫患者63例を対象としてLMB86レジメンを検討したプロスペクティブ研究において、7例が死亡した。
578	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの摂取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
579	プレドニゾン	関節リウマチの患者に疾患修飾性抗リウマチ薬(DMERDs)を投与すると、肺血症性関節炎の発症率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
580	クエン酸タモキシフェン	ホルモン受容体陽性患者の閉経後女性8028例を対象としたレトロゾール群とタモキシフェン群の無作為化二重盲検試験(BIG1-98試験)においてグレード3~5の副作用を比較したところ、レトロゾール群で心疾患の発生率が高く、タモキシフェン群で血栓塞栓症が多かった。
581	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	原発性骨髄線維症患者311例を対象としたレトロスペクティブ研究において、エリスロポエチン刺激製剤が白血球病性形質転換に関与している可能性が示唆された。
582	ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)	原発性骨髄線維症患者311例を対象としたレトロスペクティブ研究において、エリスロポエチン刺激製剤が白血球病性形質転換に関与している可能性が示唆された。
583	エタネルセプト(遺伝子組換え)	2つの自発報告データベースを用いた検討において、インフリキシマブ、アダリムマブと比較してエタネルセプト投与群で有意にブドウ膜炎の発現が多かった。
584	ジクロフェナクナトリウム	非ステロイド系鎮痛剤(NSAIDs)の使用により胃腸粘膜障害が起こり、再発を繰り返す例ではHelicobacter Pylory感染が関与していることが示唆された。
585	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク投与患者において、短期・中期・長期投与群の上部消化管障害率は24%、41%、77%であり、長期投与患者では8割の患者で上部消化管障害が発症した。
586	ヘパリンナトリウム	一医療機関においてヘパリンを投与されたHIV感染患者53例と非感染患者106例を対象としたレトロスペクティブコホート研究において、HIV感染患者ではHITの発生率が高いことが示唆された。
587	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	20件、3458例を対象とした系統的レビューにおいて危篤患者集団へのアンチトロンビン3の投与は死亡率を減少させなかった。また、出血のリスクを増加させた。
588	臭化ベクロニウム	術中腹腔内灌流温熱化学療法(HIIC)中のベクロニウム投与で、作用時間の短縮が見られた。
589	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの摂取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
590	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者547例を対象としたランダム化Phase III試験(BICC-C study)において、治療開始60日以内死亡率がFOLFIRIで3.6%、mIFLで5.1%、CapelRIで3.5%、FOLFIRI/ペバシズマブで1.8%、mIFL/ペバシズマブで6.8%であった。
591	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為交差試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの血中濃度を増加させることが示唆された。
592	エストラジオール	ホルモン補充療法使用者は、非使用者と比較してドライアイの発症が高まることが示唆された。
593	クエン酸シルデナフィル	ダルナビル/リトナビルと本剤を併用した場合、本剤のCmax、AUCが高まることが示唆された。
594	ダナゾール	赤血球生成促進薬あるいはダナゾールは、赤芽球又は血小板レベルと関係なく、遅発性の白血病と関連することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
595	メトトレキサート	侵襲性リンパ腫の中樞神経系再発患者10例を対象としたパイロットスタディにおいて、高用量メトトレキサートとイホスファミドの併用試験において、好中球減少症による敗血症で1例が死亡した。
596	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	免疫抑制療法を行った再生不良性貧血患者387例を対象としたプロスペクティブ研究において、G-CSFの投与期間の減少により、モノソミー7を伴う骨髄異形成症候群/急性骨髄性白血病への移行症例が減少した。
597	カルバマゼピン	カルバマゼピン、フェニトイン、ラモトリジンを使用した香港の漢民族において、HLA-B*1502型の患者で重篤皮膚反応の発生率が高まることが示唆された。
598	カルバマゼピン	カルバマゼピンによってTEN/SJSが生じた12名において、アジア系4名はHLA-B*1502陽性、西洋系8名はHLA-B*1502陰性だったことから、HLA-B*1502はTEN/SJSの普遍的遺伝子マーカーでなく、民族性が重要であると考えられた。
599	リン酸オセルタミビル	頂端膜上にヒトP-糖タンパクを発現している細胞を使用した経細胞輸送アッセイとMdr1a/1bノックアウトマウスを使用したin vivo試験において、オセルタミビルの脳への輸送にはP-糖タンパクが関与している可能性が示唆された。
600	リン酸オセルタミビル	Mdr1a/1bノックアウトマウスを使用したin vivo試験、ヒトおよびマウスP-糖タンパク発現細胞を用いたin vitro試験において、P-糖タンパクがオセルタミビルの血液脳関門透過に関与することが示唆された。
601	クレアチニンキット(体外診断用医薬品)	プール血清にドブタミンを添加し、トリンダー試薬と反応させる実験を行ったところ、測定値に負の誤差(数%-40%程)生じることがあり、過ヨウ素酸ナトリウムの添加により回避の可能性が示唆された。
602	インドメタシン	うつ血性心不全で入院した66歳以上の患者において、インドメタシンとロフェコキシブを使用において、うつ血性心不全での再入院率が高まることを示唆された。
603	リスペリドン	認知症の診断後に抗精神病薬を投与された患者は、抗精神病薬でない薬剤を投与された患者に比べ、死亡率が高まることを示唆された。
604	サラゾスルファピリジン	一般診療研究データベース(GPRD)を使用したリウマチ性関節炎患者34250例と対照102747例の症例対照研究において、ペニシラミン、スルファサラジン、プレドニゾン服用と敗血症性関節炎の発症率増加との関連が認められた。
605	ジクロフェナクナトリウム	健常白人男性10名において、ポリコナゾールとジクロフェナクの併用により、ジクロフェナクのAUC, Cmaxが上昇することが示唆された。
606	ケトプロフェン	出血性胃潰瘍患者において、非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)の使用が用量依存的なリスクファクターとなることを示唆された。
607	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることを示唆された。
608	リファンピシン	イソニアジド/リファンピシンでの結核治療を行った肺結核患者19例を対象とした薬物動態試験において、リファンピシン、イソニアジド、モキシフロキサシンの併用でモキシフロキサシンの血漿中濃度が低下した。
609	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることを示唆された。
610	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者547例を対象としたランダム化Phase III試験(BICC-C study)において、治療開始60日以内死亡率がFOLFIRIで3.6%、mIFLで5.1%、CapeIRIで3.5%、FOLFIRI/ベバシズマブで1.8%、mIFL/ベバシズマブで6.8%であった。

	一般的名称	報告の概要
611	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	重症敗血症患者653例を対象とした多施設共同無作為化二重盲検プラセボ比較試験において、静注用免疫グロブリンの補助療法は28日死亡率においてプラセボと有意な差を認められなかった。
612	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	重症敗血症患者を対象とした14の無作為化臨床試験のメタアナリシスにおいて、質の高い試験のみを解析した際、ポリクローナル免疫グロブリン静注補助療法は死亡率を低下させなかった。
613	クラリスロマイシン	一医療機関においてビノレルピンを含む化学療法が開始された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向きコホート研究において、クラリスロマイシン併用により好中球減少のリスクが高まることが示唆された。
614	フルコナゾール	12例の健康人を対象とした無作為交差試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの血中濃度を増加させることが示唆された。
615	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
616	リスベリドン	定型抗精神病薬デボを使用している統合失調症の患者において、長時間作用型リスベリドンへの切り替えにより、プロラクチン値が高まることが示唆された。
617	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
618	ジクロフェナクナトリウム	脊椎麻酔下で股関節形成手術を実施した患者において、NSAIDsを投与された群では術後5日間での出血量が多いことが示唆された。
619	カルバマゼピン	中国人患者におけるHLAB* 1502とカルバマゼピンによるスティーブンス・ジョンソン症候群の関連性が報告されているが、HLAB* 1502は白人集団でのカルバマゼピンによる過敏症のマーカーにはならないことが示唆された。
620	カルバマゼピン	漢民族において、カルバマゼピンによるSJS/TENにはHLAB* 1502遺伝子が強く関連することが報告されているが、斑状丘疹状皮疹、過敏症症候群などの有害な皮膚反応との関連性は示唆されなかった。
621	カルバマゼピン	台湾の漢民族において、HLAB* 1502とSJSの間に強い関連性が見られた。
622	エボエチンα(遺伝子組換え)	一医療機関において、末期腎疾患患者90例を対象として診療録を調査したところ、エリスロポエチン投与により増殖性網膜炎の罹患率・重症度が高まることが示唆された。
623	非ピリン系感冒剤(3)	アセトアミノフェン誘発性の劇症肝炎の患者において、長期抗痙攣薬投与によって死亡率が増加することが示唆された。
624	リスベリドン	新規抗精神病薬単剤投与中の統合失調症患者において、リスベリドンを投与された患者ではQT間隔延長が見られた。
625	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
626	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	肝細胞癌に対する経カテーテル的肝動脈塞栓症をおこなった535例のうち、左骨動脈からのアプローチ(TAE)群で穿刺部疼痛が29例、手指の知覚異常が7例、大腿動脈からのアプローチ群で皮下血腫が10例、穿刺部の疼痛が14例みられた。

	一般的名称	報告の概要
627	チオテパ	固形腫瘍患者43例を対象とした大量化学療法の有効性の検討において、full dose regimen投与時のほうが、reduced dose regimen投与時と比較して有意にgrade4非血液毒性発生率が増加した。
628	クエン酸シルденаフィル	ダルナビル/リトナビルと本剤を併用した場合、本剤のCmax、AUCが高まることが示唆された。
629	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	健康女性18人において、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールとダルナビル/リトナビルの併用により、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールのAUC、Cmaxが低下することが示唆された。
630	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	健康女性18人において、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールとダルナビル/リトナビルの併用により、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールのAUC、Cmaxが低下することが示唆された。
631	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	1997年10月～2007年7月までに静注免疫グロブリンが被疑薬である脳血管障害10例(うち1例死亡)、血栓症6例、心筋梗塞4例、肺塞栓2例、一過性脳虚血発作1例が報告された。
632	ヨウ化プラリドキシム	日本臨床検査薬協会の統一プロトコールで各種血糖測定器を用いて行なわれたヨウ化プラリドキシムの血糖測定値に対する影響度の確認において、治療域と考えられる濃度範囲においても偽高値が認められた。
633	ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	ビノレルピンを含む化学療法が開始された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向き研究において、クラリスロマイシン併用によりビノレルピンの好中球減少が増強されることが示唆された。
634	ブドウ糖	ST上昇型心筋梗塞患者11462例を対象としたグルコース・インスリン・カリウム療法についての後ろ向き研究において、死亡、心不全等を対照群と比較したところ、有益性が見られなかった。
635	ニコチン含有一般用医薬品	マウスにおいて、皮下に結腸癌細胞を接種しニコチンを経口投与させたところ、接種した結腸癌の発育が加速することが示唆された。
636	ニコチン含有一般用医薬品	胃がん細胞を胃壁に移植した胸腺無形成ヌードマウスにおいて、ニコチンを3ヶ月経口投与したところ、癌領域がより大きく成長し、PCNA(増殖性細胞核抗原)染色や微小血管密度をそれぞれ70%,30%増加させた。
637	クレアチニンキット(体外診断用医薬品)	プール血清にドパミンを添加し、トリンダー試薬と反応させる実験を行ったところ、測定値に負の誤差(数%-40%程)生じることがあり、過ヨウ素酸ナトリウムの添加により回避の可能性があることが示唆された。
638	ホリナートカルシウム	ステージII/III結腸癌患者1857例を対象としたアジュバント療法に関するランダム化臨床試験において、2例が腸敗血症(FLOx療法)で、3例が腸壁損傷と腸敗血症(2例FLOx療法、1例FL療法)にて死亡した。
639	スピロノラクトン	心不全患者において、スピロノラクトンを使用している場合、高カリウム血症発症リスクが高まることが示唆された。
640	ジゴキシン	標準治療を受けている心収縮機能不全患者において、ジギタリスの使用は、死亡や心不全による初回入院リスクを高めることが示唆された。
641	メチルジゴキシン	標準治療を受けている心収縮機能不全患者において、ジギタリスの使用は、死亡や心不全による初回入院リスクを高めることが示唆された。
642	テオフィリン	慢性閉塞性肺疾患(COPD)と診断された45歳以上のアメリカ退役軍人コホートから、テオフィリンを使用した患者では死亡率が高まることが示唆された。



	一般的名称	報告の概要
643	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの摂取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
644	エストラジオール	フランスでのプロスペクティブコホート試験において、閉経後女性でエストロゲンを単独使用している患者では、乳癌リスクが上昇することが示唆された。
645	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	明らかな心血管系疾患のない女性において、経口避妊薬を長期(10年間)使用した場合、頸動脈プラーク、大腿動脈プラークの保有率が高まることが示唆された。
646	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
647	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	進行・再発管内胆管癌症例で、肝外転移を伴わない症例30例において、レンチン加リピオドールと塩酸ドキシルピシンの動注を施行した5例で、心窩部不快感、吐き気、肝逸脱酵素の上昇、肝膿瘍の副作用が見られた。
648	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	切除不能多発肝細胞癌で、レンチンを用いた小粒子リピオドールエマルジョンを施行した21例において、発熱、食欲不振、悪心、肝機能障害、膵炎、冠動脈閉塞が見られた。
649	塩酸エルロチニブ	国内で実施中の切除不能膵癌患者に対するエルロチニブとゲムシタビン併用の第Ⅱ相臨床試験において、2008年1月26日時点で因果関係が否定できない重篤な間質性肺疾患様事象が106例中7例に報告され、海外第Ⅲ相臨床試験と比較して発現率が高かった。
650	ホリナートカルシウム	局所進行直腸癌患者155例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン静注投与とテガフル・ウラシル/ロイコボリン経口投与を比較した多施設ランダム化試験において、前群で1例が急性の白血球減少症により、1例が急性腸穿孔により、2例が遅発性消化管合併症により死亡した。また、後群では外科手術の重篤合併症により1例が死亡した。
651	レボホリナートカルシウム	ステージⅡ/Ⅲ結腸癌患者1857例を対象としたアジュバント療法に関するランダム化臨床試験において、2例が腸敗血症(FLOx療法)で、3例が腸壁損傷と腸敗血症(2例FLOx療法、1例FL療法)にて死亡した。
652	ベシル酸アムロジピン	胃腸障害が事前にあった患者において、カルシウム拮抗薬服用中に胃食道逆流性症状の悪化が見られた。
653	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した国内の小児において、アセトアミノフェンを使用している群は、未使用群と比較して、意識障害の発現リスクが高まることが示唆された。
654	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
655	マレイン酸フルボキサミン	副甲状腺または甲状腺の可視化剤として塩化メチルチオニウム(メチレンブルー)を静脈内に投与した際に中枢神経系毒性が生じた27例中、26例でセロトニン作動薬が使用されていた。
656	ベザフィブラート	糖尿病性高脂血症患者において、フィブラートとチアゾリジンジオンの併用治療により、HDLコレステロールが低下することが示唆された。
657	エストラジオール	40-65歳の女性において、エストロゲン単独療法を行った患者で乳癌のリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
658	硫酸アバカビル	HIV患者33347例を対象としたプロスペクティブ研究において、アバカビルやジダノシン投与により、心筋梗塞発現の増加させることが示唆された。
659	アスピリン	グルコース6リン酸脱水素酵素欠損小児20例のうち、chloroquine単独9例、chloroquine/クロラムフェニコール/アスピリン併用1例、chloroquine/アスピリン併用3例、アスピリン単独4例が血管内溶血を発現し、20例のうち11例が腎不全を発現した。
660	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	明らかな心血管系疾患のない女性において、経口避妊薬を長期(10年間)使用した場合、頸動脈プラーク、大腿動脈プラークの保有率が高まることが示唆された。
661	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルを用いて肝動脈塞栓療法を実施した14名において、悪心、血清アルブミン減少及び血小板減少が見られた。
662	リン酸オセルタミビル	2006/2007年に迅速診断キットにてインフルエンザAあるいはBと診断された患者948例を対象とした調査において、インフルエンザBではオセルタミビルあるいはザナミビル水和物の有用性が確認されなかった。
663	リン酸オセルタミビル	H5N1型インフルエンザ患者16例を対象とした調査において、リン酸オセルタミビルによる治療は明らかな治療効果が得られなかった。
664	リスペリドン	3ヶ月以上の間すくなくとも1種の抗精神病薬を使用している患者の遺伝子多型を解析したところ、HTR2C遺伝子の変異体は、リスペリドンを使用している患者で代謝症候群と特異的な関連性のあることが示唆された。
665	ジクロフェナクナトリウム	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
666	リスペリドン	10名の健康男性において、リスペリドンとリファンピシンの併用により、リスペリドンとその活性代謝物の血中濃度が低下することが示唆された。
667	エダラボン	in vitroにおいて、膀胱癌細胞株をエダラボン及びプテリン誘導体存在下インキュベートしたところ、活性酸素が誘導され、細胞死を誘発することが示唆された。
668	ジクロフェナクナトリウム	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
669	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
670	リセドロン酸ナトリウム水和物	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。
671	オメプラゾール	冠動脈ステント留置後にアスピリンおよびクロピドグレルを投与している患者126名において、オメプラゾールの併用により抗血小板作用が現弱することが示唆された。
672	ロピナビル・リトナビル	健康成人88例を対象としたクロスオーバー無作為化オープンラベル試験において、ロピナビル/リトナビルの投与によりPR間隔が延長することが示唆された。
673	リトナビル	健康成人88例を対象としたクロスオーバー無作為化オープンラベル試験において、リトナビルの投与によりPR間隔が延長することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
674	フルコナゾール	健康男性16例を対象とした非盲検非無作為化研究において、フルコナゾールとbifeprunoxの併用によりbifeprunoxのAUCやCmaxが増加した。
675	エボエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	化学療法または放射線療法を受けていない癌を有する貧血患者1473例を対象とした多施設無作為化二重盲検プラセボ対照試験において、ダルベポエチン群で生存期間の短縮が認められた。
676	ダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え)	化学療法または放射線療法を受けていない癌を有する貧血患者1473例を対象とした多施設無作為化二重盲検プラセボ対照試験において、ダルベポエチン群で生存期間の短縮が認められた。
677	リツキシマブ (遺伝子組換え)	成人リンパ腫患者338例のうち、移植前後にリツキシマブを投与した群において、ウイルス感染が4例認められ、リツキシマブ非投与群では認められなかった。
678	ランソプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
679	リセドロン酸ナトリウム水和物	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。
680	ヨウ化ナトリウム(131I)	放射性ヨード治療を受けた甲状腺機能亢進症患者2739例とコントロール2739例を対象としたコホート研究において、前群で脳血管疾患による死亡率とがんによる死亡率(特に胃癌)が上昇することが示唆された。
681	プロピオン酸ベクロメタゾン	妊娠初期にコルチコステロイドを使用していた母親から生まれた児において、口唇口蓋裂となるリスクが高まることが示唆された。
682	カベルゴリン	カベルゴリン長期投与中のプロラクチノーマ患者において、健常者と比較すると心臓弁膜症のリスクが増加することが示唆された。
683	塩酸バンコマイシン	ボツワナのさまざまな施設に所属する200例の食品取扱者から分離された204株の黄色ブドウ球菌株のうち、9株がバンコマイシン耐性を示した。
684	塩酸バンコマイシン	デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンの16施設の患者から分離された黄色ブドウ球菌株からバンコマイシンに対するMICが8mg/mLのものが2件報告された。
685	塩酸バンコマイシン	エジプトの国立がん研究所で血液がん及び固形がん患者から分離された黄色ブドウ球菌の15.5%がバンコマイシン耐性、3.5%が中等度耐性であった。
686	レボフロキサシン	キノロン製剤を投与された心臓移植患者149例の診療記録の調査において、14例にアキレス腱障害が認められ、うち3例が腱断裂、8例が両側性腱障害であった。危険因子は腎機能障害、移植から治療までの期間の延長であった。
687	オメプラゾール	冠動脈ステント留置後にアスピリンおよびクロピドグレルを投与している患者126名において、オメプラゾールの併用により抗血小板作用が現弱することが示唆された。
688	エボエチン $\beta$ (遺伝子組換え)	腎性全身性線維症患者8例とコントロール24例を対象としたケースコントロール研究において、エリスロポエチンの投与がケース群で有意に多かった。
689	インドメタシン	早期出産児にインドメタシンを投与すると、未熟児網膜症の発現頻度が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
690	インドメタシン	15の後ろ向きコホート研究と6つの症例比較対照試験によるメタアナリシスにより、妊婦への出産前インドメタシン投与は、新生児での脳室周囲白質軟化症と壊死性腸炎の発症リスクを高めることが示唆された。
691	ヘパリンナトリウム	一医療機関においてヘパリンを投与されたHIV感染患者53例と非感染患者106例を対象としたレトロスペクティブコホート研究において、HIV感染患者ではHITの発生率が高いことが示唆された。
692	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した国内の小児において、アセトアミノフェンを使用している群は、未使用群と比較して、意識障害の発現リスクが高まることが示唆された。
693	アレンドロン酸ナトリウム水和物	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。
694	塩酸イリノテカン	進行性非小細胞肺癌の韓国入患者81例を対象としたイリノテカン/シスプラチン併用化学療法の第II相試験において、有機アニオン輸送ポリペプチド1B1 (OATP1B1)の遺伝子多型を持つ患者で重度の好中球減少症や重度の下痢の発現率が高かった。
695	ホリナートカルシウム	75歳以上の大腸癌患者55例を対象としたロイコボリン/テガフル・ウラシル療法の第II相多施設共同単群非盲検試験において1例が脳血管虚血により死亡した。
696	レボホリナートカルシウム	結腸癌または直腸癌を完全に切除した患者3239例を対象としたレボホリナートカルシウム/フルオロウラシルによる補助化学療法群と観察群を比較した無作為化試験 (QUASAR試験)において、補助化学療法群で1例が死亡した。
697	ホリナートカルシウム	局所進行直腸癌患者155例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン静注投与とテガフル・ウラシル/ロイコボリン経口投与を比較した多施設ランダム化試験において、前群で1例が急性の白血球減少症により、1例が急性腸穿孔により、2例が遅発性消化管合併症により死亡した。また、後群では外科手術の重篤合併症により1例が死亡した。
698	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え)	インターフェロンベータ治療歴のある日本人多発性硬化症患者308例に対するアンケートの解析において、抗AQP4抗体/NMO-IgG陽性群では効果不十分ないしは無効、原疾患の増悪により中止に至る例が多かった。
699	塩酸フルラゼパム	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
700	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為化交差試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの消失時間を遅延させることが示唆された。
701	ジアゼパム	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
702	ホリナートカルシウム	動脈内化学療法を受けた進行性癌患者211例を対象としたレトロスペクティブ研究において、1例が突然死により死亡した。
703	ブデソニド	長期間(少なくとも7年間)吸入副腎皮質ステロイド治療を受けている患者において、大腿骨頸部の骨密度が減少することが示唆された。
704	エチドロン酸二ナトリウム	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
705	アレンドロン酸ナトリウム水和物	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。
706	塩酸セルトラリン	50歳以上の成人において、SSRIを日常的に使用している患者では骨折、転倒、大腿骨頸部や脊椎の骨塩密度の低下率が高まることが示唆された。
707	クロナゼパム	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
708	ジアゼパム	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
709	ヘパリンナトリウム	カテーテルを使用した血液透析を受けている患者559例の796のカテーテル中141で敗血症が発現し、ヘパリンの中間急速静注がリスク因子であった。
710	リファンピシン	健康男性10例を対象とした非盲検無作為化二方向性クロスオーバー試験において、リファンピシンとリスベリドンの併用により、リスベリドンのAUCや最高血漿中濃度が有意に減少した。
711	トフィソパム	16例の白人健康男性において、トフィソパムとミダゾラムの併用により、ミダゾラムのAUC、Cmaxが増加することが示唆された。
712	プレドニゾン	一般集団と比較して、関節リウマチ患者は卒中発作のリスクが高く、プレドニゾンの使用で高まることが示唆された。
713	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
714	エストラジオール	現在または過去にホルモン補充療法を受けている患者において、髄膜腫のリスクが高まることが示唆された。
715	リツキシマブ(遺伝子組換え)	HIV関連非ホジキンリンパ腫患者150例を対象としてR-CHOP療法とCHOP療法を比較したランダム化Phase III試験において、R-CHOP療法群で感染症による死亡率が高かった。
716	塩酸ミトキサントロン	化学療法歴のない転移性乳癌患者386例を対象としたランダム化比較試験において、シクロホスファミド、ミトキサントロン、カルボプラチンの化学療法と自家幹細胞移植の併用群と標準化学療法群を比較したところ、前群で5例が感染、1例が肝不全、1例がうつ血性心筋症により死亡した。
717	メトレキサート	メトレキサートを投与されているリウマチ患者60586例を対象とした医療保険請求データベースを用いた後ろ向き研究において、119例に消化管穿孔が認められ、下部消化管穿孔の方が、上部消化管穿孔よりも発現頻度が高かった。
718	ペバシズマブ(遺伝子組換え)	高齢の進行期非扁平上皮非小細胞肺癌患者224例を対象とした部分集団解析において、パクリタキセル/カルボプラチン群とパクリタキセル/カルボプラチン+ペバシズマブ群を比較したところ、前群では感染と心虚血で各1例が、後群では2例が咯血、2例が感染、1例が発熱性好中球減少症、1例が吐血、1例が脳虚血で死亡した。
719	ホリナートカルシウム	動脈内化学療法を受けた進行肺癌患者211例を対象としたレトロスペクティブ研究において、1例が突然死により死亡した。

	一般的名称	報告の概要
720	メトトレキサート	脳卒中と診断されていないリウマチ患者33191例とコントロール99570例を対象としたコホート内症例対照研究において、メトトレキサートにより脳卒中が増加することが示唆された。
721	パクリタキセル	製造販売業者が作成した定期的安全性最新報告において、パクリタキセルを含む多剤併用化学療法を受けた患者において急性骨髄性白血病の報告頻度が上昇したことが報告された。
722	ロラゼパム	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
723	塩酸プロカルバジン	BEACOPP(プレオマイシン、エポシド、ドキソルビシン、プレドニゾン)療法を受けた進行期ホジキンリンパ腫男性患者38例を対象としたプロスペクティブランダム化試験において、治療後に精液濃度の低下が認められ、無精子症や射精困難症が増加した。
724	塩酸プロカルバジン	ホジキンリンパ腫女性患者518例を対象としたコホート研究において、放射線単独療法と比較し、化学療法、特にプロカルバジンやシクロホスファミドの使用により早期閉経が増加することが示唆された。
725	クロルジアゼポキシド	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
726	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	少なくとも3ヶ月のインターフェロン ベータ(IFNB)またはglatiramer acetate(GA)治療を受けた再発寛解型多発性硬化症患者190例を対象とした解析において、IFNB投与により脊髄での再発が多かった。
727	フェノバルビタール	数々の疫学データより、てんかん患者の自殺率は一般集団に比べ5倍高く、側頭葉てんかん及び複雑部分発作は約25倍高くなることが示唆された。
728	フェノバルビタール	105名のてんかん患者を対象として、自殺行為の危険因子の性差を調査したところ、女性の方が自殺の危険性が高いことが示唆された。
729	フェノバルビタール	43名のてんかん患者(6-16歳)を調査したところ、フェノバルビタール投与患者では、カルバマゼピン投与患者と比較して、大うつ病及び自殺念慮の有病率が高いことが示唆された。
730	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	少なくとも3ヶ月のインターフェロン ベータ(IFNB)またはglatiramer acetate(GA)治療を受けた再発寛解型多発性硬化症患者190例を対象とした解析において、IFNB投与により脊髄での再発が多かった。
731	リン酸オセルタミビル	2007/2008シーズンに欧州でオセルタミビル耐性ウイルスが検出され、特にノルウェーで高頻度に認められた。
732	カゼイ菌製剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
733	エストラジオール	閉経後にホルモンを使用していた女性において、乳癌となるリスクが増加し、中でも1日2drink以上アルコールを摂取している場合は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
734	エストラジオール	現在または過去にホルモン補充療法を受けている患者において、髄膜腫のリスクが高まることが示唆された。
735	エプレレノン	4-16歳の小児高血圧患者304人において、エプレレノン投与する二重盲検試験を行ったところ、小児に対するエプレレノンの有効性は見られなかった。

	一般的名称	報告の概要
736	塩酸バンコマイシン	米国で7例目のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が確認された。
737	ノルエチステロン・エチニルエスト ラジオール	経口避妊薬の使用歴が長い(10年以上)または最近使用している(10年以内)女性において、乳房腫瘍の発生を促進する可能性がある。
738	塩酸イリノテカン	進行性非小細胞肺癌の韓国人患者81例を対象としたイリノテカン/シスプラチン併用化学療法の第Ⅱ相試験において、有機アニオン輸送ポリペプチド1B1(OATP1B1)の遺伝子多型を持つ患者で重度の好中球減少症や重度の下痢の発現率が高かった。
739	トレチノイン	肺気腫患者130例を対象とした無作為化二重盲検試験において、全trans型レチノイン酸投与により高脂血症を発現する可能性が示唆された。
740	プレドニゾン	慢性リウマチ患者において、プレドニゾンを経口で中用量(7.5mg以上/日)、6ヶ月以上服用した群は、非曝露群、3ヶ月未満の曝露群、低用量(7.5mg未満/日)を6ヶ月以上使用した群と比較して高血圧のリスクが高まることが示唆された。
741	イブプロフェン含有一般用医薬品	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
742	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	がん患者の貧血治療に関するPhaseⅢ試験89試験のオーバービューにおいて、がん患者に対するエリスロポエチン製剤の投与が静脈血栓塞栓症のリスクを増加させることが示唆された。
743	ダルベポエチン アルファ(遺伝子組 換え)	がん患者の貧血治療に関するPhaseⅢ試験89試験のオーバービューにおいて、がん患者に対するエリスロポエチン製剤の投与が静脈血栓塞栓症のリスクを増加させることが示唆された。
744	リツキシマブ(遺伝子組換え)	再発濾胞性リンパ腫患者17例を対象としたリツキシマブ/フルダラビン/シクロホスファミド併用療法の第Ⅱ相臨床試験において、6例に重度の遷延性血小板減少症が発現し、高齢者の方が有意にリスクが高かった。
745	塩酸バンコマイシン	一医療機関においてバンコマイシン中等度耐性が2菌株報告された。
746	塩酸シナカルセト	シナカルセト投与中の患者6例を対象とした各種パラメーターの変動追跡において、シナカルセト長期投与後の中止は副甲状腺ホルモン分泌のリバウンドを起こすことが示唆された。
747	塩酸ミキサントロン	ダウン症の急性骨髄性白血病患者57例を対象としたカルテ調査において、髄膜炎菌性菌血症、フェロー四徴症の無酸素発作、RSウィルス敗血症、肺水腫、うっ血性心不全、呼吸器疾患、原因不明で8例が死亡した。
748	耐性乳酸菌配合剤(1)	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
749	アプロチニン	オンポンプまたはオフポンプで心臓手術を受けた9106例を対象としたレトロスペクティブ研究において、トラジロールが術前にACE阻害剤を投与された患者でのオフポンプ手術後の腎機能障害リスクを増加させることが示唆された。
750	ポリコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為化交差試験において、ポリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの消失時間を遅延させることが示唆された。
751	フルコナゾール	カルシニューリン阻害剤の静脈内投与を受けている同種造血細胞移植患者53例を対象としたレトロスペクティブ研究において、フルコナゾールの経口投与は静脈内投与と比較してカルシニューリン阻害剤の全平均血中濃度が上昇することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
752	ビフィズス菌製剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
753	エポエチンβ(遺伝子組換え)	がん患者の貧血治療に関するPhaseⅢ試験89試験のオーバービューにおいて、がん患者に対するエリスロポエチン製剤の投与が静脈血栓塞栓症のリスクを増加させることが示唆された。
754	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬使用者は、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
755	セフトリアキソンナトリウム	帝王切開施行患者54例および婦人科手術施行例12例を対象としたプロスペクティブ研究において、術前の抗生物質投与で抗生物質が新生児に移行していることが示唆された。
756	アスピリン	網膜中心静脈閉塞症の患者144名において、多変量ロジスティック回帰解析により、アスピリンの投与がリスクファクターとなることが示唆された。
757	カベルゴリン	カベルゴリンを服用しているパーキンソン病患者は、服用していない患者と比較して、大動脈弁肥厚となるリスクが高まることが示唆された。
758	酪酸菌配合剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
759	乳酸菌製剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
760	エストラジオール	閉経後にホルモンを使用していた女性において、乳癌となるリスクが増加し、中でも1日2杯以上アルコールを摂取している場合は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
761	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	リビオドールを用いて12例に肝動脈塞栓療法を実施したところ、重篤な肝障害(ALT上昇)が3例に見られた。
762	耐性乳酸菌製剤(1)	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
763	耐性乳酸菌製剤(2)	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
764	ビフィズス菌製剤(4)	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
765	アセトアミノフェン	妊娠第1期のアセトアミノフェン曝露により、児での耳、顔面、頸部の先天異常、内側婁孔/洞/嚢胞の発現リスクが高まることが示唆された。
766	塩酸イリノテカン	70歳以上の日本人非小細胞肺癌患者37例を対象とした第Ⅱ相試験において、UGT1A1*6,*28について対立遺伝子を2つ以上有する患者ではAUC SN-38G/AUC AN-38比の有意な低下が認められ、白血球減少、好中球減少の発現が有意に高かった。
767	メシル酸イマチニブ	妊娠中にイマチニブ投与を受けた女性180例を対象としたレトロスペクティブ研究において、妊娠中のイマチニブ曝露により重篤な胎児異常、自然流産のリスクが増加することが示唆された。



	一般的名称	報告の概要
768	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	コリスチンを投与されたICU患者86例を対象としたレトロスペクティブな観察研究において、腎毒性が56例中24例に発生した。
769	塩酸ヒドラルジン	ヒドラルジンを妊娠SRH(高血圧自然誘発ラット)に妊娠10-20日まで連続投与したところ、胎児死亡、胎児の子宮体形成不全が見られた。
770	乾燥濃縮人活性化プロテインC	18歳以上のDrotrecogin alfa投与を受けた重症敗血症患者287例を対象としたレトロスペクティブ研究において、12例に重篤な出血が認められた。
771	塩酸ピオグリタゾン	多嚢胞性卵巣症候群患者30例を対象とした無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験において、ピオグリタゾン投与により腰椎、大腿骨頸部、大腿骨転子部の骨塩量が有意に低下した。
772	エストラジオール	ホルモン補充療法を長2年を越えて使用している患者は、6ヶ月未満の使用者と比較して乳癌による入院リスクが高まり、経皮剤より経口剤でそのリスクが高まることが示唆された。
773	エストラジオール	エストロゲン単独療法を6年以上行い、注視して6年未満の女性において子宮内膜癌発症リスクが高まり、エストロゲン単独使用を完全に中止した女性は、エストロゲン単独使用からエストロゲン・プロゲステン併用療法に切り替えた女性よりも子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
774	エストラジオール	経口エストロゲン、プロゲステン併用療法を使用している患者は、貼布剤使用患者に比べ、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
775	エストラジオール	エストロゲン補充療法を40ヶ月を越えて使用している女性は、健常女性と比較して乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
776	エストラジオール	30-50歳の女性において、ホルモン補充療法使用者は、未使用者と比較して乳房異常の発生率が高く、乳癌のリスクが高まることが示唆された。
777	エストラジオール	マンモグラフィースクリーニングを受けた閉経後女性において、エストロゲン・プロゲステン併用療法を5年以上している場合、乳癌発現リスクが高まることが示唆された。
778	エストラジオール	閉経前後の女性8161人を対象としたコホート研究において、ホルモン補充療法を使用している患者では乳癌、子宮内膜癌の発症が高まることが示唆された。
779	エストラジオール	新規子宮内膜癌患者591人を対象としたケースコントロール研究において、ホルモン未使用者と比べエストロゲンと周期的なプロゲステン併用(10日</月)及び連続的なプロゲステン併用により子宮内膜癌のリスクが高まることが示唆された。
780	エストラジオール	30-55歳の看護婦121700例を対象としたプロスペクティブなコホート試験において、閉経後のホルモン使用者は小葉癌とホルモンレセプター陽性腫瘍のリスクが上昇することが示唆された。
781	エストラジオール	45歳以上の女性看護師23178例を対象としたコホート研究において、エストロゲン・プロゲステン併用療法を現在使用している患者では乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
782	エストラジオール	閉経後女性23618例を対象としたコホート研究において、エストロゲン・プロゲステン連続併用療法使用者は、エストロゲンレセプター陽性乳癌との関連が高いことが示唆された。
783	エストラジオール	閉経後の看護士10874例を対象としたコホート研究において、ホルモン補充療法使用者は、未使用者と比べて乳癌発症リスクが高まり、ホルモンレセプター陽性乳癌のリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
784	エストラジオール	閉経後女性を対象としたコホート研究において、エストロゲン・合成プロゲステロン併用患者では乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
785	エストラジオール	Million Women Studyの結果解析により、黄体ホルモン併用例、非HRT群と比較してエストロゲン単独投与で子宮内膜癌の危険性が増大することが確認された。
786	エストラジオール	40-67歳女性を対象としたコホート研究において、50歳以上の女性でホルモン補充療法を使用している場合、乳癌発症リスクが上昇することが示唆された。
787	エストラジオール	自然閉経女性において、10年以上のホルモン補充療法使用者は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
788	エストラジオール	閉経後女性24697例を対象としたコホートを用いたネステッドケースコントロール研究において、ホルモン補充療法使用者は、エストロゲンレセプター陽性乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
789	エストラジオール	メタアナリシス研究により、ホルモン併用療法使用者では浸潤性乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
790	エストラジオール	メタアナリシス研究により、エストロゲン単独、エストロゲン・プロゲステロン併用療法を使用している患者では乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
791	エストラジオール	閉経後女性を対象とした多民族(アフリカ系アメリカ人、ネイティブハワイ人、日系アメリカ人、ラテン系、白人)コホート研究において、いずれの民族でもエストロゲン・プロゲステロン併用療法使用者は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
792	エストラジオール	閉経後女性を対象としたケースコントロール研究において、プロゲステロンレセプター331A遺伝子をもつエストロゲン・プロゲステロン併用療法使用者は、乳管腫瘍とプロゲステロンレセプター陽性腫瘍発症のリスクが高まることが示唆された。
793	エストラジオール	40-69歳までの24479例の女性を対象としたプロスペクティブコホート研究において、最近のホルモン療法使用者では、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
794	エストラジオール	ケースコントロール研究において、エストロゲン療法を長期(140ヶ月以上)使用している患者は、17ヶ月未満使用している患者と比べ、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
795	エストラジオール	プロスペクティブなコホート試験において、閉経後ホルモン療法を最近5年以上使用している患者では乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
796	エストラジオール	スタチン非使用者と比較して、スタチンを使用し、長期(6年以上)ホルモン補充療法を使用している場合、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
797	エストラジオール	31381例の閉経後女性を対象としたコホート研究において、エストロゲン補充療法使用者は卵巣癌発症リスクが高まり、5年以上使用している場合はそのリスクが上昇することが示唆された。
798	エストラジオール	閉経後女性103344例を対象としたコホート研究において、やせた(BMI<25kg/m <sup>2</sup> )女性でホルモン補充療法を使用している場合、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
799	エストラジオール	閉経後女性35456例を対象としたコホート研究において、ホルモン補充療法使用者では乳癌発症リスクが高まり、エストロゲン単独投与を受けている場合、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
800	エストラジオール	子宮非摘出でホルモン補充療法を使用している女性において、卵巣癌発症リスクが高まることが示唆された。
801	エストラジオール	ホルモン補充療法使用経験者は、未使用者と比較して卵巣上皮癌発症リスクが高まり、長期使用(10年<)によりそのリスクが上昇することが示唆された。
802	エストラジオール	エストロゲン長期(10年以上)単独療法使用者において、卵巣癌発症リスクが高まることが示唆された。
803	エストラジオール	米国黒人女性において、エストロゲン単独またはプロゲステリン併用ホルモン補充療法は乳癌リスクを上昇させ、痩せた女性(BMI<25)は、よりリスクが上昇する。
804	エストラジオール	50-69歳の閉経後女性296651例を対象としたコホート研究において、ホルモン補充療法使用者は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
805	エストラジオール	SULT1A1*2遺伝子を持ち、エストロゲン補充療法を長期使用している場合、未使用者と比較して子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
806	エストラジオール	閉経後エストロゲン単独療法を3年あるいはそれ以上の期間使用している女性では、ホルモン補充療法未使用者と比較して子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
807	エストラジオール	乳癌の診断を受ける前の6ヶ月から6年までの期間におけるホルモン補充療法使用により、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
808	エストラジオール	46933例を対象とした多民族(アフリカ系アメリカ人、ネイティブハワイ人、日系アメリカ人、ラテン系、白人)閉経後女性のコホート研究において、エストロゲン単独療法使用者は、未使用者と比較して子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
809	エストラジオール	50歳を超える女性において、ホルモン併用療法を6ヶ月を越えて使用している場合、エストロゲンレセプター陽性乳癌リスクが上昇することが示唆された。
810	エストラジオール	エストロゲン・プロゲステリン併用療法を使用している閉経後女性16608例を平均5.6年追跡し、浸潤性乳癌発現について調査したところ、本試験開始前にホルモン療法を使用している女性で、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
811	エストラジオール	アジア系アメリカ人女性において、エストロゲン・プロゲステリン併用療法を使用者は、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
812	エストラジオール	50-71歳の73211例の女性を対象としたコホート研究において、5年以上のエストロゲン単独療法使用者は、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
813	エストラジオール	閉経期または閉経後の女性12583例を対象としたプロスペクティブコホート研究において、エストロゲン・プロゲステリン併用ホルモン療法を現在使用している場合、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
814	エストラジオール	50-71歳の103882例の女性を対象としたコホート研究において、ホルモン療法を現在使用している患者において、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
815	エストラジオール	60歳以上の女性で閉経後ホルモン補充療法を使用している場合、血漿中の遊離エストラジオール、エストラジオールの濃度が高いと乳癌のリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
816	エストラジオール	20-74歳の女性を対象としたケースコントロールスタディにおいて、エストロゲン・プロゲステリン併用療法により、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
817	イトラコナゾール	12例の健常成人を対象とした無作為化交差試験において、イトラコナゾール併用により、フェキソフェナジンのAUCが増加した。
818	クラリスロマイシン	一医療機関において、ビノレルピンを投与された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向き研究において、クラリスロマイシン併用により好中球減少の相対危険度が増加した。
819	塩酸マプロチリン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。
820	イトラコナゾール	12例の健常人を対象とした自己対照試験においてイトラコナゾールとの併用により、イミダフェナシンのC <sub>max</sub> ,AUCが有意に増加した。
821	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	人工膝関節形成術症例74例を対象とした貯血式自己血輸血の際のエリスロポエチンの使用群と未使用群の比較においてエリスロポエチン使用例では術後の出血量が有意に多かった。
822	インドメタシン	原発性水痘または帯状疱疹の診断を受けた患者の2つのコホート研究により、NSAIDs使用の場合、水痘および帯状疱疹ウイルス感染による重度の皮膚及び軟部組織合併症のリスクが高まることが示唆された。
823	塩酸ノルトリプチリン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。
824	マレイン酸フルボキサミン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。
825	ジクロフェナクナトリウム	非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDs) あるいはアセトアミノフェンによる治療を受けた50歳以上の患者において、NSAIDsとアスピリンの併用使用により、NSAIDs単独使用時に比べ、上部消化管に対する有害事象で入院するリスクが高まることが示唆された。
826	ホリナートカルシウム	術前化学療法としてFOLFOX4による治療を受けた結腸直腸癌の肝転移患者54例を対象としたレトロスペクティブ比較研究において、2例がGrade4の脂肪肝から肝不全にいたり、うち1例が死亡した。
827	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	新規乳癌と診断された女性150名を対象、健常女性を150名をコントロールとしたケースコントロールスタディにおいて、経口避妊薬の使用者は、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
828	エストラジオール	卵巣癌と診断された女性を対象としたケースコントロールスタディにおいて、エストロゲン長期単独療法使用者では、上皮卵巣癌発症リスクが高まることが示唆された。
829	プロポフォール	ICUの重症患者において、プロポフォールを投与したところ、心不全をもつ患者群では、プロポフォールのクリアランスが低下することが示唆された。
830	アスコルビン酸	酸逆流モデルラットを用いた試験において、アスコルビン酸と亜硝酸ナトリウムを併用投与により食道癌発生が促進されることが示唆された。
831	マレイン酸フルボキサミン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
832	ホリナートカルシウム	消化器癌患者105例を対象としたプロスペクティブ研究において、フルオロウラシル/ホリナートカルシウム群、フルオロウラシル/ホリナートカルシウム/放射線療法群、シスプラチン/フルオロウラシル群を比較したところ、フルオロウラシル/ホリナートカルシウム/放射線療法群で1例、シスプラチン/フルオロウラシル群で3例が死亡した。
833	プロピオン酸フルチカゾン	長期間(少なくとも7年間)吸入副腎皮質ステロイド治療を受けている患者において、大腿骨頸部の骨密度が減少することが示唆された。
834	エストリオール	閉経後にホルモンを使用していた女性において、乳癌となるリスクが増加し、中でも1日2杯以上アルコールを摂取している場合は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
835	ラクトミン	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
836	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	腎有足細胞からVEGFを欠損させたマウスにおいて、重度の血栓系球体障害が認められた。
837	フルコナゾール	12例の健康人を対象とした無作為化交差試験において、ボリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの消失時間を遅延させることが示唆された。
838	非ピリン系感冒剤(4)	15名の健康な被験者において、カフェインを含有しているコーラ種子とハロファントリンを併用したところ、ハロファントリンとその活性代謝物のAUC、Cmaxを減少させることが示唆された。
839	フルコナゾール	カルシニューリン阻害剤の静脈内投与を受けている同種造血細胞移植患者53例を対象としたレトロスペクティブ研究において、フルコナゾールの経口投与は静脈内投与と比較してカルシニューリン阻害剤の全平均血中濃度が上昇することが示唆された。
840	コンタクト洗浄液	ウサギにおいて、本剤で洗浄したコンタクトの使用により眼刺激が見られた。
841	コンタクト洗浄液	動物実験において、本剤で洗浄したコンタクトレンズを装着した際、眼に異物感が確認された。
842	塩酸ポリヘキサニド	ソフトコンタクトレンズ洗浄液でコンタクトを洗浄したところ、アカントアメーバ角膜炎となるリスクが高まることが示唆された。
843	染毛剤	本剤によると思われるアナフィラキシー性ショックを起こし、病院に搬送された1例。
844	コンタクト洗浄液	ソフトコンタクトレンズ洗浄液でコンタクトを洗浄したところ、アカントアメーバ角膜炎となるリスクが高まることが示唆された。
845	栄養ドリンク	本剤を服用し、蕁麻疹、アナフィラキシー様症状をきたした1例。
846	塩酸ポリヘキサニド	ソフトコンタクトレンズ洗浄液でコンタクトを洗浄したところ、アカントアメーバ角膜炎となるリスクが高まることが示唆された。
847	虫よけスプレー	子豚において、ディートとオキシベンゾン併用して皮膚に使用すると、それぞれ単独使用の場合に比較して経皮吸収が上昇することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
848	薬用歯みがき類	アトピー性皮膚炎、アレルギー性皮膚炎の既往のある女兒が、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール(POEPOPG)を含有する歯磨き粉を使用したところアナフィラキシー反応をおこした。
849	カゼイ菌・ビフィズス菌製剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
850	乳酸菌製剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
851	染毛剤	本剤によると考えられるアナフィラキシーを生じた1例。
852	コンタクト洗浄液	本剤の成分であるプロピレングリコールはアカントアメーバのシスト化を促すことが示唆された。
853	エチニルエストラジオール含有製剤	エチニルエストラジオール含有クリームを使用して子宮内膜の増殖、乳癌をきたした1例。
854	歯面塗布用クリーム	歯磨き類を塗布したところ、アナフィラキシーショックをきたした1例。
855	加水分解コムギ末	本剤の成分である加水分解コムギ末にが要因となり、使用すると手に水泡ができ、呼吸困難などのアナフィラキシーショックをきたした1例。
856	化粧品	本剤使用3日後に顔面の晴れを生じ、医療機関に3日間入院した1例。
857	乾燥濃縮人血液凝固第8因子	海外での訴訟に関する報告(当該製品は国内で流通していない)。
858	ウリナスタチン	スクレイパープリオン感染ハムスターを用いた異常プリオンの検出試験において、疾患末期に高率の異常プリオンが検出された。